ISSN　2187-638X

静岡英和学院大学

キリスト教研究年報

第四号

2016 年 3 月

静岡英和学院大学　キリスト教研究会

キリスト教研究年報　二〇一六年三月
静岡英和学院大学　キリスト教研究会

キリスト教研究年報　第四号

特集：キリスト教とコミュニケーション

目　次

第四号発行によせて……静岡英和学院大学学長　武藤　元昭

コミュニティ音楽療法と「ハープの会」……コミュニティー福祉学科　山田美代子　1

デンマーク王クリスチャン三世宛ての書簡を通して見られる
　宗教改革者ブーゲンハーゲンの苦悩についての一考察……人間社会学科　伊勢田奈緒　7

コミュニケーションについてのアンケート・結果報告
　……現代コミュニケーション学科　柴田　　敏　19

「情報とコミュニケーション」技術（ICT）の礼拝や伝道への利用について
　～利用状況等Ⅱ関する基礎資料その１の覚書～……コミュニティ福祉学科　中原　陽三　37

新任保育者はキリスト教主義園の保育をどう捉えているのか
　－１年間のインタヴュー分析より－……非常勤講師　鈴木　幸子　47

「インタビュー」武藤元昭学長から、そして武藤元昭学長へ
　…… インタビュアー　深澤凜、坂本昇平（人間社会学科２年）　59

2015 年度のチャペルとキリスト教行事の報告 …… 63

2014 年度職員研修会におけるレジュメ
　……日本キリスト教団牧師・和泉短期大学前学長　伊藤　忠彦　64

執筆要綱…… 66

編集後記…… 67

第４号発行によせて

学 長 武 藤 元 昭

「キリスト教年報」第４号の刊行を心から喜びたい。伊勢田宗教主任の意欲と実行力の賜と言ってよい。

小さなキリスト教大学の小さなキリスト者集団の中で年報を発行し続けるのは簡単なことではない。そのような環境の中で宗教主任と共に編集や執筆に携った教員諸氏にも敬意を表したい。

キリスト教学校の在り方に就いては、さまざまな議論がなされている。どの学校も多かれ少なかれ本学の抱える問題に共通する課題を抱えている。キリスト者教員の減少と、キリスト教に関わりを持たずに入学してきた学生・生徒への建学の精神の伝達である。キリスト教教員の減少は即ち宗教委員の減少に繋がる。結局限られた教員が宗教委員を続けることになるので、活動も慢性化の傾向に陥り易くなる。学生・生徒に建学の精神を理解させるのも時間がかかる。しかし、私立学校にとって建学の精神は命であるから、宗教センターの仕事は大事であるのではあるが、かなり難しい。そうした中で宗教主任の働きは大きなものとなる。幸い伊勢田宗教主任は学生との対話を非常に大事にしているので、多くの学生が周囲に集まってくる。キリスト教学校での宗教活動の在り方の一例を示していると言える。

そのような中で本号は出来上がった。今回は「キリスト教とコミュニケーション」が主なテーマとなっている。各執筆者が日頃の研究をテーマに沿って披瀝しているので充実した内容である。こうした形で本学の建学の精神の一端を窺わせることが出来るのは甚だ喜ばしい。是非その点をお汲み取り戴きたいものである。

この調子で第５号以下も続けられることを願っている。大方の御期待、御叱正を交々賜りたいものである。

この３月で任期満了となる私にとっては何よりの記念となるものと喜んでいる次第である。

コミュニティ音楽療法「ハープの会」

山　田　美代子

1. はじめに

今から17年前の1999年、日本福音ルーテル浜松教会（以下当教会と称す）を会場に、6人のメンバー(筆者を含む)がアイリッシュハープを習い始めた。レッスン形態は、ハープの講師を招いてのグループレッスンで始まった。半年過ぎた頃、教会や当時筆者の勤務する高齢者施設で、演奏をする機会を得たが、その活動は、一年と続かないで終わってしまった。

それから16年の月日が流れ、2015年2月、日本福音ルーテル社団（以下JELAと称す）のプログラム「リラ・プレカリア（祈りのたて琴)」の活動をしているキャロル・サック氏を当教会に招聘し、講演会を開催したことをきっかけに、同年5月、「ハープの会」が再び復活した。「ハープの会」のメンバーは、当教会員3名（筆者を含む）と筆者の友人の計4名で、月二回の頻度で、当教会を会場として練習をしている。昨年暮れのクリスマスの祝会での演奏は、初演でありハープ講師とメンバー4名で「神の御子は」「We wish you a Merry Christmas」「きよしこの夜」の三曲を演奏した。

筆者は、現在コミュニティ音楽療法の実践家として、地域文化活動「The合唱団」のコーディネーターをしている。「ハープの会」においても同様にコーディネーターをしていることから、今回メンバー2名（初心者）に、これまでの半年間を振り返り、ハープを奏でるという体験による影響や今後についてインタビューをすることとした。以下、まずハープの歴史とコミュニティ音楽療法について簡単にまとめた後、インタビューについてのまとめを述べた。

ハープの歴史

ハープは、もっとも古くから存在する楽器のひとつで、旧約聖書にも登場し、古代ユダヤにおける儀式や式典にかかせない楽器として登場している。ダヴィデ王はハープ奏者として讃えられ、詩篇は彼が作曲してハープで伴奏をつけながら歌ったものだと伝えられている。「ダヴィデが傍らで竪琴を奏でると、サウルは心が休まって気分がよくなった（旧約聖書　サムエル記上16章23節より)」と記されていることは、音楽による癒しについて書かれた最も古い文献だとも言われている。

ウィルキンソン（2015）によれば、古代エジプトでもハープは演奏されており、当時のハープの様子は、残された絵画からわかるという。「紀元前3世紀から2世紀頃の絵に描かれた三角形のハープは、共鳴胴から垂直に伸びた木製のネック（棹）に弦が10～20本張られていている。古代メソポタミアやギリシャにも同様の楽器があり、プラトンは、ハープにについて言及している。しかし、彼が、気に入っていたのはリラ(ライア)のほうだったようだ。リラは古代ギリシャでよく使われた楽器で、こじんまりした気楽な集まりで演奏されていたとされる。

古代のハープはヨーロッパ各地に広まっていたため、古代ローマ時代には北欧でもよく知られていたという。西ローマ帝国滅亡後には、新しいタイプのハープが登場し、三角形の木製のフレームになっている。9世紀の絵画に描かれているのが現存する最古のもので、現代のオーケストラ・ハープよりはるかに小さいが、これが祖先だとされている。

中世のフレームハープは現代のものに比べると弦の数も少なく、最古の絵では12本程

度である。14 世紀になると、作曲家ギヨーム・ド・マショー（1300-1377）が 25 本の弦のハープについて記述したものがある。

ケルティックハープは、アイリッシュハープともよばれ、アイルランド、スコットランド、ウェールズ、ブルターニュといったケルト文化圏に古くからある伝統楽器で、現代でも演奏されている。木製のフレームで、オーケストラ用ハープに比べ小さく、中世の挿絵に描かれたフレームハープによく似ている。アイルランドのダブリンのトリニティ・カレッジに保存されている 14 世紀に製作された高さ 70 センチの古いアイリッシュハープを踏襲して作られたものや 19 世紀初めにアイルランドで製作されたポータブル・ハープから派生したものもある。ガット弦またはワイヤ弦が張られ、指か爪ではじくのが伝統的奏法で、大きく響くグランドハープよりも明瞭で小気味よい音がする。各弦についているフックで半音下げできるものや最近のモデルではレバー操作で音程を変えられるものもある。」
（ウィルキンソン（2015）:「図説楽器の歴史」p138 － 140）

コミュニティ音楽療法

スティーゲ（2008）はコミュニティ音楽療法について次のように述べている。

「クライエントが住み、セラピストが働く地域コミュニティに、そして / あるいは利益コミュニティに結びつけられる音楽療法実践。基本的に、コミュニティ音楽療法に関するふたつの主な概念が存在する。すなわち、a) コミュニティコンテクストにおける音楽療法、そして b）コミュニティにおける変化のための音楽療法である。両方の概念とも、セラピストが社会的・文化的コンテクストに敏感であることが必要とされる。

しかし、より急進的な度合いが増す後者の概念は、問題となっているコミュニティに目標や介入が直接関係するという点において、治療の慣例的な現代の概念からは逸脱している。それゆえ、音楽療法は文化的、社会的取り組みと見なされる可能性があり、コミュニティ行動として機能するかもしれない。つまり、コミュニティは音楽療法のためのコンテクストであるだけでなく、音楽療法とともに機能するコンテクストでもある。双方の異なる形のコミュニティ音楽療法はともに、プロジェクト志向型アプローチの妥当性を示唆し、その場合、時にはいくつかの集団や個人の治療プロセスが、同じコミュニティ音楽プロジェクトに属する可能性がある。プロジェクト志向型アプローチにおいては、通常、伝統的ではないセラピストの役割と仕事（プロジェクト調整、異なった専門領域にまたがる協議、そして地域での政治的広報や行動を含む）が必要となる。

コミュニティ音楽療法は、それがよりよく確立されるために、広い領域にわたる学際的な理論を必要をし、研究の適切なモデルはエスノグラフィ、そして参加型アクション・リサーチを含む（後者は特にコミュニティ音楽療法より急進的な定義に適している）。個人、集団、そしてコミュニティがシステムにおいて、システムとして機能するので、コミュニティ音楽療法は必然的に生態学的である」と。
（「文化中心音楽療法」用語集ｐ 404 － 405）

先にも述べたが、本研究の目的は、現在「ハープの会」に参加しているメンバーにインタビューをし、ハープを奏でるという体験を通して感じていること、今後についての考えを明らかにすることであった。

2．方法

対象：「ハープの会」のメンバー 2 名。2 名とも、5 0 代女性、教会員である。

インタビュー日時と内容：2015 年 12 月、1 月　20 ～ 30 分程度、場所は教会で、半構成的インタビューをした。本人の了解を得て IC レコーダーに録音した。

分析方法：対象者の語った内容を、表にまとめ、分析した。

3．結果

本研究の目的は、教会における「ハープの会」の活動が、コミュニティにおいてどのような意味があるのか明らかにし、またコミュニティ音楽療法としての今後の可能性について考察する為に、二人のメンバーにインタビューを行った。結果は、表１の通りである。

表１　２名に対するインタビュー内容とその回答

	質問内容	Aの回答	Bの回答
1	ハープを始めようと思ったきっかけは何ですか？	教会で開催したリラ・プレカリア講座に参加して、近くハープの会を立ち上げるということを聞いてすぐに参加したいと思った。	音楽による活動をしたいと思っていた時に、偶然筆者（山田）からの誘いを受けて
2	今まで習った楽器はありますか？もし習ったことのある楽器があれば、今も演奏することはありますか？	ピアノ。中学生まで習っていたが、音楽系への進路は考えなかった。今の住まいには置いてなくほとんど弾かない。	ピアノ。小学６年生まで、いやいや親から習わされ、今では弾かない。
3	ハープの良いと思われる点は？	音色そのもの。	音が好き。癒される。一弦弾いただけでも。
4	ハープのデメリットは？	ハープ教室は、ほとんど見かけず、見たり触れたりすることが少ないから身近でないこと。	弦が切れる度にお金がかかる。
5	ハープを一人で弾くのとグループで弾くのとでは、どのように感じていますか？	グループで弾く方が、重みがあっていい。	どちらもいい、時に一人で時にみんなで。音楽は得意ではないので、発表となると緊張したりしてストレスを感じるが、練習で合わせた時には、「すごいなー」と感じた。
6	練習会場が教会（礼拝堂）という場所はどう感じているか？	音の響きが良い。海外の教会では礼拝堂で（音楽が）奏でられているので。	響きがいい。教会員だからなじみの場所。
7	半年間ハープを続けてこられて得られたことは？	癒しになっている。仕事の帰りにハープにふれ、その日の夜には仕事上で感じたイライラ感が消えているから、ハープによって癒されている。疲れない。	仕事の帰りに立ち寄っても疲れない。ストレス発散になっている。仕事は論理的なものが要求されるが、ハープは言葉も数字もなく、反対のように感じる。
8	これから演奏したい曲はありますか？	ディズニーの「美女と野獣」のような落ち着いた感じの曲が弾けたらいい。	讃美歌を教会で演奏することは素敵だなぁ。
9	ハープ指導者についてどのように感じていますか？	的確に判断して、指導して下さる。ハープが好きなんだなぁ。	忍耐強く、笑顔で何度でも教えてくれるから、（通い）続けられている。
10	今、習われて良いと感じているハープという楽器をもっと多くの人に浸透させていく為には、どのようなことが考えられますか？	病院（勤務先）で話をしたりしている。	海外の教会（フランス）に行った時に礼拝堂で演奏されていたギターがとてもきれいだった。（教会が）あんな風になったらなぁ。

11	リラ・プレカリア（祈りのたて琴）の講座で感じたことは？	（講座の中で）エピソードを聞いて、参加者の中に号泣していた人がいて、気持が分かる気がした。みんな疲れていて、音楽（聴かせる、聴く）というのではなく、スピリチュアル的な感じで聴く人に届けている。	死後の永遠の世界というものが、深いものであることを想像した。
12	ターミナルケアにおいて、「リラ・プレカリア」のような介在的方法を他に知っていますか？	手を握り、そばに居ることくらい。ホスピスでは、他にあるからもしれないが、一般に病院というところは、治すところとされている。	知らない。
13	これからハープを続けていく中での希望は？	教会は癒しを求めてくる場なので、身近に（感じられるような提供が）出来たらいい。	挫折しないで続けられたらいいなぁ。

本研究のインタビュー対象者２名は、同世代で、仕事も医療系の仕事に日勤で従事しており、同教会員でもあることから類似点が多く、回答においても類似する点が多かった。簡単にまとめた内容は、次の通りである。

- 子どもの頃、ピアノを習っており、読譜力がある程度ある。
- ハープ講師は、的確に何度でも繰り返す等、優しい指導者である。
- ハープ購入までは、身近な楽器ではなかったが、日々の練習やレッスンを通してその良さを感じている。
- ハープを習うことになったきっかけは、**自ら求めていた時の偶然の出会い**だった。今は、そのハープの音の良さを感じている。
- 「ハープの会」の練習会場が教会であることについては、なじみがあり音の響きが良い環境である。
- レッスンが、仕事帰りであっても、**疲れることはない**。レッスンを受けている内に、仕事上でのトラブルを**考えなくなり忘れ**、仕事と反対方向のモードで、**ストレス解消や癒し**となっている。
- 「ハープの会」の立ちあげのきっかけとなった「リラ・プレカリア（祈りのたて琴）」講座を通して、参加者の中に号泣された場面を見て、誰しも何らかの心身の疲れを抱え生活していることを感じた。**自らもハープを通して癒しを体験し、これから教会という場が、ハープによる賛美をすること、また癒しを求めて来る人に（何かしらの）提供できたらいい**と感じている。

以上のことから、それぞれにハープとの特別な出会いがあって、ハープを習うことになったこと、ハープにふれることは、日常の仕事の疲れの癒しになるという自らの体験を通して、今後教会という場において癒しを求め来られる人に何らかの提供が出来れば、と考えていることが明らかとなった。

４．考察

本研究の目的は、「ハープの会」に参加しているメンバーが、ハープを奏でるという体験を通して感じていること、今後についての考えを明らかにすることであった。また、教会を会場とした「ハープの会」の活動が、コミュニティにおいてどのような意味があるのか、またコミュニティ音楽療法としての今後の可能性についても考察する。

⑴　ハープを奏でる体験で感じていること、「ハープの会」の意味

ハープという楽器の弦にふれ、ハープを奏でることは、**音そのものに癒しを感じ、疲れや嫌なことを忘れる**、ということがわかった。また、主体的に取り組む自らの体験を通して、教会という場に癒しを求める人がいたなら

ば、そうした空間でハープが用いられることは、ハープのもつ力によって何らかの良い影響へと導くのではないかと感じていることが明らかになった。

ハープの歴史は古く、長年にわたって奏でられ、その周りに人々は集まり一緒に祈りを捧げ演奏されてきた。オーケストラという形態は、たかだかここ数百年ほどのことである。

若尾（2000）は、エンターテインメントという成り立ちではない音楽が、これから少しずつ意味を持ち始める可能性について次のように記している。

「エンターテインメントとしての音楽は、近代の産物であり、ルネッサンス以後急速に発展していったもので、それは古典派からロマン派に至るまでの音楽とその技法に集約されている。この時代の歌やオペラの多くのテーマが恋愛であるのは不思議はなく、それは現世的な喜びといちばん直結していたからで、この伝統はいまでもポップスに受け継がれている。それは人間の感情的な側面に特に根ざしているだけ、音楽のなかではいちばん好まれているわけである。しかし、よく考えてみれば、そういう音楽のあり方は、ある時代的なものにすぎず、普遍的なものとは考えることはできない。音楽史では、知識としては、そのもっと昔の音楽についても学ぶが、そういった音楽の意味がいま、ミュージック・タナトロジー（音楽による死の看とり、音楽死生学）という新しいジャンルがきっかけとなって復活されるかもしれない。……近代のエンターテインメントだけの音楽文化からの脱皮の一つの兆しかもしれない」と。

また、ハープの会のメンバーがインタビューの中で応えているように、ハープは、独りで奏でるも良し、みんなで奏でるも良し、ということである。ハープを習うというより、独りで奏でることで、自己の深層にふれる体験をしているように感じている。

現在、一人30分の個人レッスンを受け、今後も教会行事等で「ハープの会」として演奏することを予定しているが、人前で練習の成果を演奏披露することによる達成感等を目的とするエンターテインメントであれば、一般的な活動と同じである。しかし、もしそうではない方向、つまり近代の音楽文化から脱皮する展開が出来るのであるならば「ハープの会」の挑戦は意味のあるものとなるように感じている。

⑵　コミュニティ音楽療法「ハープの会」の今後の可能性

近年わが国は、1995年1月17日の阪神・淡路大震災、2011年3月11日の東日本大震災という二度の大きな震災を経験した。そのような中、他人とのつながりを形成するプロセスにおいて、お互いが補い保証しあう（シナジィの原理が存在する）ということを、実際に多くの報道を通して知った。また、自らも被災地を訪問し、そのことを体験的に理解した。吉永は、シナジィについて次のように説明している。「シナジィは生理学や生物学でも用いられる概念で、共同作用、相互関係を意味します。例えば人間の体のそれぞれの部分は、その部分だけ孤立して存在するのではなく、全体を構成する体の一部です。目は目として耳は耳として働き、それぞれ固有の機能をもち、他の部分とつながることによって自らの存在と必要性を明らかにします。このようにお互いが補い保証しあう関係をシナジィといいます。」

現代社会は多くの人が孤独や孤立を経験している。人生の途上で様々な困難を抱える人々も多い今日、シナジィの原理を信じ、人々が集うならば、コミュニティ音楽療法の果たす役割や使命は大きいと考える。まだ歩き始めたばかりの「ハープの会」ではあるが、何か演奏をする為にといった短期的な「目標指向的な行為」とは異なる方向でありたい、と考える。長期的な持続により歴史的に受け継がれてきたハープそのものと同様に「文化的実践」でありたい。今後、筆者は、コミュニティ音楽療法実践者として、ユーリア・エンゲストロームらの提唱する「人と人とが即興的に響きあう新たなつながり」を創発していけるようコーディネートを模索していきたい。

本稿原稿〆切の前日、コミュニティ音楽療法「ハープの会」は、ルーテル浜松教会において、前回に引き続いてキャロル・サック氏を招き、JELA のプログラム「リラ・プレカリア（祈りのたて琴）Part Ⅱ」を開催した。参加者は 38 名であった。床にじゅうたんを敷き詰め、その上に横になる者、椅子の上で身体の力を緩める者、参加者たちはそれぞれに即興的に奏でられるハープの音やこえに耳を傾け、全身で感じる体験をし終了した。その体験の感想は、実に様々でそのことを大事にしたい、と深く感じた。

5．謝辞

本稿をまとめるに当たり、「ハープの会」のメンバーや活動に理解があり原稿を御校閲頂いた宮前珠子氏に深謝いたします。

6．文献

フィリップ・ウィルキンソン（大江聡子訳）(2015)：50 の名器とアイテムで知る図説楽器の歴史．原書房，p138-140

ブルュンユルフ・スティーゲ（坂上正巳監訳）(2008)：文化中心音楽療法．音楽之友社，ｐ 404-405

山住勝広、ユーリア・エンゲストローム (2008)：ノットワーキング．新曜社，p18, 39

吉永宏 (1999)：響きあう市民たち．新曜社，ｐ 169

若尾裕 (2000)：奏でる力．春秋社，ｐ 33-34

デンマーク王クリスチャン３世宛ての書簡を通して見られる宗教改革者ブーゲンハーゲンの苦悩についての一考察

伊勢田　奈　緒

宗教改革者ブーゲンハーゲン[1]はマルティン・ルターの熱烈な支持者であり、良き協力者であり、ルターの思想を全面的に受容し、それを実践していった人物である。彼はルターの推薦によって1523年にヴィッテンベルク市教会の主任牧師に任命され、ヴィッテンベルクを中心としてザクセン選帝侯領内の教会をルターの説く福音主義教会に改革することに全力を注ぎ、他方、ルターの告悔父であり、彼の精神的支えでもあった。1520年代後半からは彼のそれまでの経験と実践力が実を結び、福音主義に基づいたヴィッテンベルク市の再生と同時にヴィッテンベルク大学での神学研究と共に聖書の低地ドイツ語訳に取り組み、さらに北・低ドイツ、北欧などの教育改革を含む組織的な宗教改革をルターと共に推し進めていった。しかし、1546年以降－ルターの死とシュマルカルデン戦争後－は彼にとって最も困難で不遇な時を過ごすことになった。良き理解者を失った彼は福音主義を守るためではあったが、カトリック側との妥協の道を取らざるを得なくなった。この彼の苦渋の選択であった行動とそれに対する非難囂々、そしてそれ故の彼の苦悩について、彼は1550年のデンマーク王クリスチャン３世[2]へ宛てた書簡にしたためている。現代はさまざまな手段でコミュニケーションをとることができるが、当時、公的であれ、私的であれ、書簡が最大の遠方にいる者へのコミュニケーション手段であったと言えよう。本稿では、この書簡を通して、シュマルカルデン戦争の中で苦悩するルターを支持し続けてきたブーゲンハーゲンの証言を検討し、一考察をしたい。尚、本稿テーマによる先行研究は拙著が調べた限り、なされてはいない。

１．ブーゲンハーゲンとクリスチャン３世との出会い

先ず、クリスチャン３世がブーゲンハーゲンと懇意になるまでの経過を述べておこう。

宗教改革の時代、デンマーク王クリスチャン３世は、イングランドのエドワード６世が試みようとしたように、福音主義の考えを重視し国家を宗教の改革を通して統治しようとした王であった。彼は1503年、父フレゼリクが主に居住していたゴットルフ城で生まれ、10歳の時にドイツ人である母アンナ・フォン・ブランデンブルクが死亡し、その４年後に父はポンメルン出身のソフィー・ア・ポンメルンと再婚した。また、クリスチャン３世自身、1525年にザクセン＝ラウエンブルク公マグヌス１世の娘ドロテアと結婚している。実母と妻がドイツ人であり、継母がブーゲンハーゲンと同郷のポンメルン出身ということも彼らが親交を深める要素の一つであったかもしれない。

クリスチャン３世は最初の家庭教師がルター派のヴォルフガング・フォン・ウーテンホーフとヨハン・ランツァウであったために信仰的にも彼らから深い影響を受けた。彼らの勧めにより、1521年にクリスチャンはドイツへ遊学し、ヴォルムス帝国議会でマルティン・ルターの喚問での弁明を聴き、感銘を受けたという。また、クリスチャンはルター派の考えを秘密としなかったので、彼の辛辣な批判はカトリックが多数を占めるデンマーク王国参事会や父王との衝突を生んだ。彼はカトリックの司教の反対にもかかわらず、統

[1] Johannnes, Bugenhagen（1485-1558）
[2] Christian III（1503- 1559）

治下にあるシュレスヴィッヒ公国においてルター派の布教に最善を尽くした。1533年4月、父王の死去に際し、後継者争いとなった。すなわち、参事会の多数派である聖職者や貴族はルター派を支持するクリスチャンの国王即位を拒否し、クリスチャンの異母弟のハンスを擁立しようとしたため、参事会は国王選出を延期した。翌1534年にはオルデンブルク伯クリストファがリューベックなどの支援を受け、クリスチャン2世の復位を名目に挙兵し、伯爵戦争が始まった。2年間の攻防戦後、ヨハン・ランツァウの活躍などがあり、1536年7月29日にコペンハーゲンが降伏し伯爵戦争は終結した。

戦争終結後、クリスチャン3世は同年8月12日に司教逮捕を皮切りに宗教改革を推し進めていった。10月には聖職者を抜きに諸侯会議を開催し、教会領の没収、ノルウェーの一地方化、息子フレゼリクを後継と認める即位憲章を承認させた。この改革に大きく貢献したのがブーゲンハーゲンであった。クリスチャンはデンマークにおける宗教改革を成功させようとザクセン選帝侯ヨハン・フリードリヒ1世[3]に依頼をしたが、その時、ザクセン選帝侯に推薦されたブーゲンハーゲンであった。

ブーゲンハーゲンがクリスチャンに正式に出会ったのは1537年8月12日のコペンハーゲンの聖母教会での戴冠式においてであった。戴冠式は従来、カトリックの大司教が取り仕切る儀式であったが、この時、ラテン語ではなくドイツ語を使い、デンマーク人ではなくヴィッテンベルク市教会牧師によるプロテスタントの様式による全く新しい形式で行われ、これはデンマークが福音主義の国家として新しく立っていくことへの決意表明であったと言えよう。クリスチャンは1536年8月、コペンハーゲン入城から一週間も経たないうちに大改革を断行し、同年10月、議会にて国家の宗教をルターの教えに基づいた福音主義のものにすることを正式に宣言した。ルターもブーゲンハーゲンもこのことに賛辞の言葉を述べたが、しかし、王に教会の財産を拒絶しないように警告した[4]。

ブーゲンハーゲンがデンマークを去って以後、彼が亡くなる時に至るまで、彼らは書簡を交換し続けることになるが、この時の出会いが交流のきっかけであった。しかし、彼らの最初の出会いはクリスャンが18歳の1521年、ヴィッテンベルク大学においてであった。また、1529年には父フリードリヒ1世とクリスチャン[5]がブーゲンハーゲンにフレンスブルク・フランチェスコ会修道院における熱狂主義者M・ホフマンとの討論会の指導を要請していることからその当時から知己になっていたようである。この戴冠式において、34歳の王と、52歳のブーゲンハーゲンの再会は非常に懐かしかったことであろう。前述したように、当時、王が再婚した相手がブーゲンハーゲンの母国の王女であったこともお互いの印象を良いものとしたことであろう。また、1526年にホルシュタイン公及びシュレスヴィッヒ公に就任していたクリスチャンは、ブーゲンハーゲンの北ドイツでの教会形成や教育改革などのめざましい働きを十分知っていたと考えられる。このことも王が彼に信頼を寄せた要因と言えよう。

戴冠式を終え、9月2日に先ず、ブーゲンハーゲンが中心となって取りまとめた教会法が公布された。同時にブーゲンハーゲンは7

[3] Johann Friedrich (I.), 1503- 1554（在位1532～47)）は、マルティン・ルターと友好関係にあり、ヘッセン方伯フィリップと共にシュマルカルデン同盟の盟主となった。しかし、1546年のシュマルカルデン戦争を経て、1547年に神聖ローマ皇帝カール5世にミュールベルクの戦いで敗れて選帝侯位と所領を奪われ、又従弟でヴェッティン家の別系統（アルブレヒト系）に属するモーリッツに与えられた。しかし、モーリッツの勢力拡大を恐れたカール5世は、ヨハン・フリードリヒの子息たちにテューリンゲンの各地の方伯として領土を与えて、ヴェッティン家の統一を阻んだ。

[4] この時、ブーゲンハーゲンは「教会の建物、説教者、学校、貧民、教会や学校の扶助料、年間の緊急巡察の必要、婚姻に関する裁判、救貧学生のために、多くの蓄えが必要である」（Briefwechsel, Vogt, 142）と王に示唆しているがこのような丁寧な実践的な助言をしてくれるところを既に知っていて、ザクセン公に彼の派遣を依頼したのであろう。

[5] 当時、クリスチャン三世はシュレスヴィヒ・ホルシュタイン侯領における王の代理であった。

名のルター派の牧師を監督とする聖職按手式を挙行した。彼が構想したこの監督職は、各個教会の自立を目指すためのものであり、また牧師達の説教における教理や生活、牧会方法などを監督する職であった。ブーゲンハーゲンは、この7名の牧師監督団を中心にしてデンマークにおける宗教改革を執行しようとした。さらに彼は王から要請を受けてコペンハーゲン大学の再建を行った。同大学は1475年クリスチャン1世の時に建てられたがその当時、ドイツ、フランス、イタリア（特に新しい思想を学べるヴィッテンベルク大学へ）などへ留学する者が多く、また、デンマークでは内戦がうち続くこともあって、自国の大学で学ぶ者が少なかったのである。しかし、新しい教会に新しい聖職者を要請する必要が出てきたこともあって、プロテスタント教会の牧師を養成する神学校として、コペンハーゲン大学を再興する必要があった。1537年9月9日、大学再建の儀式は王や市の行政官たちが参加して行われた。その後、彼の約2年間の滞在の後、1539年6月10日には、教会規則も採用されることになった。デンマークの宗教改革は国王主導のもと、無駄な血を流さず、実施が出来たが、この改革にはブーゲンハーゲンが非常に尽力したことは確かなことである。王のブーゲンハーゲンに対する信頼は厚く、王は彼のデンマーク永住を望んだ。王は1541年にはブーゲンハーゲンにシュレスヴィッヒの監督を要請し、またルターやヨーナスの説得にもかかわらず、彼は固辞した。さらに翌年、王は彼をコペンハーゲン大学の学長に要請したが、彼はこれも辞退した。以上、二人はルターの改革思想を通して出会い、デンマークの宗教改革を通して王の厚い信頼の下、友好関係が築かれていったことがわかる。

2．ブーゲンハーゲンにとっての1546年以降

1520年代から30年代までのブーゲンハーゲンはルターを公けにおいても、私的においても支えながら、福音主義を伝えるための最も活躍した時代だった。しかしその彼の歩みも、1546年－ルターの死とシュマルカルデン戦争勃発－以降は不本意なこと、困難な出来事が続き、後退しているように思われる。彼は福音主義を守るため、やむなく妥協の道を取らざるを得なくなったことにもなった。ここでは、彼に身に起こった不幸とも言うべき出来事－ルターの死とシュマルカルデン戦争、そしてインテリム－について考えてみよう。

① ルターの死とルターとの関係

ブーゲンハーゲンがルターを知ったのは95ヶ条の提題から3年を経た時だった。当時、彼はポンメルンにおけるトレプトウ・ベルブクの修道院学校での教育と共に聖書講義と教父研究に携わり、神学研究を熱心に取り掛かった頃であった。彼は1520年10月頃、トレプトウのマリア教会の主任司祭O・スルトウ主催の教職員たちの集まりで、ルターの『教会のバビロン捕囚・序曲』を紹介されたのをきっかけに、ルターの教え、信仰義認の神学に心酔するようになった[6]。翌年3月に彼はトレプトウでの小学校長とベルブク修道院の講師の職を辞し、全てを捨ててポンメルンを去り、ヴィッテンベルク大学に入学した。この彼の急激な行動を見る限り、当時の彼がいかにルターの考えに心奪われたかがわかる。彼の到着は、ちょうど、ルターがヴォルムス帝国会議に出発する直前だった。ルターの教えを乞おうとしてヴィッテンベルクへ来た彼だったが、ヴォルムス帝国会議以後、ルターはヴァルトブルク城に身を潜め、彼は直接にはルターが1522年3月にヴィッテンベルクに戻ってくるまで会えなかった。しかし、彼はメランヒトンからの信頼を得て1520年11月から、学生の身分のまま、大学の教師として講義を担当することになり、ヴィッテンベルクの神学研究者の仲間として活動することになった。その中にあって、彼はヴィッテンベルクの騒動、そしてその後のルターのしっかり地に足をついた教会の改革を、直接に経

[6] ブーゲンハーゲンは、1520年12月、直接、ルターにキリスト者としての生き方の指針について尋ねる書簡を送った。この時、ルターから返信と共に著書『キリスト者の自由』が送られてきている。

験することができた。この時期、彼はカールシュタットなどの急進派の改革の行き過ぎに否定的であったと言う[7]。1523年10月、ブーゲンハーゲンはルターからザクセン公ヨハンへの推薦があってヴィッテンベルク市の主任牧師となり1532年からは総牧師長、監督として活躍することになる。これ以降、彼は亡くなる前年の1557年までその職に就いていた。ルターとの関係は公私共に、親交が深く、家族ぐるみのつきあいであった。ブーゲンハーゲンはルターの結婚式を挙行したり、また、ルターの代わりに説教や講義にも務めたり、またヴィッテンベルクの教授陣としてルターと共にヴィッテンベルク大学を支え、福音主義の神学研究をまた、聖書翻訳にも協同してその作業に加わった。さらに彼はルターの葬儀の説教も務めた。以上、ブーゲンハーゲンは最も崇拝するルターに信頼され、用いられ、公私共々、支え合って宗教改革の仕事を成し遂げようとしていた。故に、敬愛するルターの死は彼にとって、宗教改革の旗手を失い、羊飼いを失った迷える羊のような心持ちであったと共に、良き友であり同志である者を失う喪失感を痛いほど味わったことであろう。彼はルターの死後、ルター派における第二位の立場にあるメランヒトンと共にこれからルター派教会を纏めていかなければならない立場となった。よく言われていることであるが、穏和なメランヒトンは教会統率力がなく指導的感化も弱かった。ローマ教会に妥協的でルターの説く恩恵のみの立場ではなく神人協力を唱えることになったメランヒトンに従う者達がフィリップ派を形成した。さらにブーゲンハーゲンはシュマルカルデン戦争へと身を投じていくことになり、彼は最も苦しく厳しい状況の中に身をおくことになった。

②　シュマルカルデン戦争とインテリム

シュマルカルデン戦争はルターの死の直後の1546年の夏に起こり、翌年4月に戦争は終結したが、シュマルカルデン戦争の意味を考えてみよう。1530年に皇帝カール5世はアウグスブルク帝国議会を召集した。彼の目的はなによりも帝国内の諸侯の宗教の問題を平和的に解決することであり、彼はプロテスタントに対し、彼らの神学的立場を帝国議会において説明することを求めた。このことに応じて、ルター、メランヒトン、ブーゲンハーゲン、ヨーナスらによるカトリック慣習の批判をヴィッテンベルク派を代表して、メランヒトンがまとめたものが、『アウグスブルク信仰告白』(Confessio Augustana) であった。これはカトリック側との和解を意識したものであったので、カトリック側に反論の余地を与えた。他方、ツヴィングリ派は自己の立場を譲らず『信仰の理由』(Fidei Ratio) が、南独都市からはブーツァーが起草した『四都市信仰告白』[8]を提出した。ルターもメランヒトンが行った譲歩を認めなかった。こうしてプロテスタント側も分裂の危機に陥ったが、1531年にルター派諸侯・帝国都市はヘッセン方伯フィリップの主唱のもと、シュマルカルデン同盟[9]を結んで帝国の権威に対抗することになった。同盟は、主として宗教問題[10]を主張したが、他方、ローマカトリック教会を支持、擁護する皇帝側は政治、経済、社会の諸問題の権利の保護を主張した。翌年には、トルコ軍の侵攻という帝国全体にとって危機が生じ、皇帝は宗教上の相違はある程度、目をつぶらなければならず、ニュルンベルク和約で、一時的にプロテスタント教徒に信教の自由を許した[11]。この機に、プロテスタント

[7]　メランヒトンはこの時の彼を「その時、ブーゲンハーゲンは町の一致と平和のために自己を抑制しつつ、確固不動さをもって働いた」と評している。

[8]　四都市はシュトラスブルク、コンスタンツ、リンダウ、メミンゲン。

[9]　シュマルカルデン同盟に加盟する条件は『アウグスブルク信仰告白』を承認することと同盟全員の賛成を得ることであった。しかし、上記の『四都市信仰告白』と『アウグスブルク信仰告白』は一致すると見なされ、これを承認することが同盟加入の条件の一つとされた。

[10]　神のことばの説教の自由、福音的教理とそれにかかわる教会的、信仰的事柄の改革の自由など。

[11]　シュマルカルデン同盟はバイエルン、オーストリアの南ドイツ、フランケン、シュヴァーベンなどの南西ドイツに広がり、さらにフランス、イングランド、デンマークまで拡大し、中央ヨーロッパでの国際的同盟に至る勢いであった。彼はカト

は急速に新しい地域を支配下に収めていった。1537年2月にシュマルカルデン同盟会議を開催することとし、ザクセン選帝侯はその会議に福音主義の正しい信仰を主張するため信仰条項の起草をルターに命じ、ルターは同盟会議に先立つ同年1月に、『シュマルカルデン条項』を献呈した。これは同盟会議で承認を受け、1538年に公にされた。この条項は著しく反カトリック的傾向[12]を帯びているものであった。一方、カールは、公会議を開催して教会の分裂を収め、行政面での改革を進めるという希望を捨てず、クレメンス7世（在位1523～1534）に公会議の召集を求めたが、叶わなかった。その後、カールは公会議の見込みが当分、ないことを悟り、次に再合同のために1540年以来、アーゲノー、ヴォルムス、レーゲンスブルクなどで、会談を開催したが、両派の歩み寄りは見られなかった。カール5世は和解への道に見込みはないこと、プロテスタントは軍事力と政治力を縮小されない限り公会議に参加しないと判断した。そこで、カールは徐々にプロテスタント抑圧の計画を進めていくことになる。

カールは力によってプロテスタント勢力を弱め、公会議を最終採決者と認めさせようとした。彼は公会議でキリスト教世界の再一致のために必要な調整をしつつ、プロテスタントもカトリックも共に非難する教会の悪弊を是正できると考え、プロテスタント勢力分断策を工作した。ところで、この頃、シュマルカルデン同盟の盟主ヘッセン方伯フィリップの重婚問題というスキャンダルが起こり、プロテスタント側に亀裂が生じ、皇帝に都合良く事が運ぶことになった。重婚は帝国法で禁止されていて、重婚者の領土・財産の没収が定められていた。重婚禁止違反を機にシュマルカルデン同盟の結束が緩んでいった。皇帝に抵抗するシュマルカルデン同盟の勢力を強化するはずであったフランス、イングランド、デンマーク、スウェーデンとの折衝も泡と消えてしまった。さらに、クレメンス7世の後継者パウル3世（在位1534～1549）が皇帝に説得され、ついに1545年トリエント公会議を開くことができたのである。しかし、これにシュマルカルデン同盟諸侯は出席しなかった。シュマルカルデン戦争はこの事を口実に皇帝側からの武力行使で勃発した。実際の戦いの前に、皇帝は、ヘッセン方伯フィリップの婿で、ザクセン選帝侯ヨハン・フリードリッヒの従兄弟であるモーリッツが選帝侯と争い、フィリップと仲違いをしていたことにつけ込み、モーリッツにフィリップとヨハン・フリードリッヒとの戦いに勝利したら、選帝侯の栄誉を与えることを約するという裏工作を行った。シュマルカルデン同盟側が戦争の準備が整っていなかった状況の中、モーリッツの同盟脱落や、また、福音主義教会側の指導者たちが起こしたさまざまな問題やブラウンシュヴァイクのヴォルフェンビュッテルの裏切りなどもあり、同盟間の不信、反感、不和の渦巻く中、皇帝軍である反シュマルカルデン側が勝利し、事実上シュマルカルデン同盟は崩壊した。しかし、戦争には勝利したものの、カールは不安だったようである[13]。そ

リック教会とプロテスタント教会の一致を試み、ヴォルムスや、レーゲンスブルクの宗教会談を開いたが、両者の見解の相違は非常に大きく調停は成功しなかった。

[12] 『シュマルカルデン条項』は第三部からなり、第一部はカトリック教徒もプロテスタント教徒も問題なしに信ずることの出来るキリスト教の根本的な信仰過剰として「神的権威に関する高貴な条項」を記したものである。第二部は「イエス・キリストの使命と行為、すなわち、私たちの救いに関わる条項」についてと題して、先ずキリストによって義とされるという、いわゆるSola fideの教えをあげて、教皇とその教会との対抗しなければならない態度を表明し、次に教会のミサとこれに伴う巡礼、遺物崇拝などを排撃している。第三に修道院における教育および礼拝を非難し、第四に教皇の神権を論責し、一般にカトリック教会に対するもっとも強い論争を成している。第三部は、プロテスタント的信仰の立場、罪、律法、悔い改め、福音に基づく洗礼および聖餐などを説き、また鍵、懺悔、聖別および任職、聖職者の結婚、教会、善行、誓約、人間的戒規などんついて語っている。

[13] シュマルカルデン戦争を起こす前に、カールはハンガリーのマリアに宛てて「私はヘッセンとザクセンに対し戦争を開始する決意を固めました。この両国は、ブラウンシュヴァイク公とその領土を攻撃し、人々の平和を乱したのです。こう申したからといって、そのために問題は宗教問題であるという事実がいつまでも見過ごされてはなりま

れは、特にプロテスタント勢力を妥当したにもかかわらず、教皇との関係を悪化させてしまったからであった。彼はアウグスブルク帝国議会にて、カトリックを全領土に再建しようとし、さらにルター派に対し、インテリム、すなわち、暫定協定を1548年に可決させたが、ローマ教皇庁はこれを認めなかった。インテリムは皇帝の委託を受けた委員会の手で作成されたものであった[14]。内容的にみれば、インテリムは、軽く修正されたカトリック信仰の教えといってもいいようなものであったが、ただ、それに加えて一般信徒の二種聖餐式や司祭の結婚などを認めるなど、プロテスタントに対する譲歩を含んでいた。カトリック諸侯は暫定支持が自分たちに適用されることを拒否し、ローマ教皇もこれを否認した。一方、プロテスタント側は、マグデブルクの反抗的なルター派の者たち[15]が激しく皇帝に抵抗するに至った。他方、このインテリムに妥協したのが、メランヒトンやブーゲンハーゲンたち、ヴィッテンベルクの神学者たちだった。その理由付けはアディオフォラ理論であった。アディオフォラとは神の言葉によって命じられもせず、禁じられもせず、それ自体善でも悪でもない非本質的なものとしての儀式や慣習のことを指す。カトリック教会のある礼典や習慣、すなわち、堅信、終油、化体説を抜きにしたミサ、聖人崇敬をアディオフォラとした。彼らはインテリムの強制する諸事項は、特に礼拝形式はアディアフォラであるから、従って差し支えないとしたのである。しかし、これに反発したのが純正ルター派、すなわち、マグデブルクの神学者たちだった。ルターが亡くなって以降、純粋な教義の確定に必死になり、ルターの説くキリスト者の自由の霊的な本質を見失った純正ルター派の神学者たちと、他方、インテリムにおけるアディアフォラ論争、聖餐論や救いのために人がいかなる意味で協力するのか等の問題への議論が噴出したり、ローマ教会との共通の土台の模索をしたり、改革派との間の融和的立場をとろうとしたメランヒトンやブーゲンハーゲンを中心とするフィリップ派の対立が生まれた。純正ルター派は、インテリムに対する具体的行動として、マグデブルクの告白によって抵抗の正当性を主張した[16]。以上のように、1546年前後のブーゲンハーゲンを取り巻く状況は、ルターの死、シュマルカルデン同盟内の結束の弱体化、ルター主義の立場をとる福音主義者たちの分裂、皇帝とローマ教皇・カトリック諸侯、福音主義者たちの不和など、最善の道を模索するには非常に困難で苦渋に満ちたものであったことが想像できる。

3．書簡[17]を通して

以上、これまで示してきたことを背景に、1546年以後、彼がどんな思いをもって過ごしたかをデンマーク王クリスチャン3世へ宛てた1550年10月1日付けのブーゲンハーゲンの書簡によって検証していきたい。

彼らの交換書簡[18]は、クリスチャンからブーゲンハーゲン宛ての物が40通、ブーゲンハーゲンからクリスチャン宛ての物が50通あるとされていて、この数から考えても彼らがいかに交流をしていたかが想像できる。彼らの書簡の始めの頃は互いの要求を伝える公的な内容であったようである。すなわち、王は自国デンマークの説教者の要請や大学の

せんが、ともかくこれは、ルター派を分断させるかもしれないのです。」と記している。(Karl Lanz,Correspondenz des Kaisers Karl V, II,(Leipzig,1845) pp.486-8)

[14] そのメンバーにはナウブルクの司教フルーク、マインツの補佐司教ヘルディング、戦争の時、中立を保ったブランデンブルグ選帝侯の宮廷神学者で、ルター派の中でも多く人々から敵視されていたヨハン・アグリコラであった。

[15] アムスドルフやフラキウス等、純正ルター派と呼ばれる者。

[16] このインテリムは、プロテスタント側から反発を受け、また、プロテスタント内部での抗争を生み、それだけでなく、カトリックからは教会に対する公的の干渉であるとの反発があって、１５５２年に停止された。

[17] Bugenhagen, Johannnes, Epistola Apologetica ad Daniae et Norvegiae Regem, Glorisissiamae memoriae,Christianum III &., Contra Scriptores adiaphoristicos, Aliosque Obtrectores, (the first of October,1550)

[18] Irene Dingel,Stefan Rheine ed., Der spate Bugenhagen, Leipzig, 2011, p.238

教授候補の推薦をブーゲンハーゲンに依頼し、ブーゲンハーゲンは王の申し出に応えた。同様にブーゲンハーゲンは王にデンマーク人の才能のある神学博士たちを要求するものであった。また、彼は王の書簡によってデンマークでの福音主義の広がりの進捗状況を得ることもできた。そして次第に公的な内容から私的なものを含む書簡へと変化していった。彼は個人的にザクセン選帝侯アウグストと結婚した王の娘アンナについての近況を知らせたり、新しい神学書について紹介したり、ドイツや周辺の国々における教会と政治の状況なども知らせた。また、ヴィッテンベルクの市教会の牧師館で彼はデンマーク出身の学生の面倒をよく見ていたようでそのことを王に報告している。このようなやりとりを通して彼らは公私にわたって親しい関係であったことがわかる。しかし、1546年を機にルター派の分裂が鮮明となってきた頃から彼らの関係がうまく行かなくなったことが推定される。デンマークはシュマルカルデン同盟に属していたが、しかし、シュマルカルデン戦争後、インテリムの時、クリスチャンは福音主義の旗手であったヴィッテンベルクの学者たちが、分裂し、ヴィッテンベルクに残った学者達のあいまいさに戸惑っていたと考えられる。もちろん、ブーゲンハーゲン自身も非常に動揺していたことは否めない。

今、1550年10月1日付の書簡は何のために書かれたのかを考察したい。最も考えられる理由は、当時、ヴィッテンベルク大学の神学者達について流布している誹謗中傷を当然、王が耳にしていると彼は考えていたのであろう。王の彼への不信を払拭してもらうためにその弁明をする目的で書かれたと考えられる。まず、手紙の第一声はヨハネによる福音書8章44節からで、悪魔について述べている。すなわち、「あなたがたは悪魔である父から出た者であってその父の欲望を満たしたいと思っている。悪魔は最初から人殺しであって、真理をよりどころとしていない。彼の内には真理がないからだ。悪魔が偽りを言う時は、その本性から言っている。自分が偽り者であり、その父だからである」とある。彼が悪魔と考えていたのはシュマルカルデン戦争が終わりインテリムの下、かつての同労者であった純正ルター派である。彼はさらに、「・・そして皇帝は私たちをこの約束により服従させたが、それによって平和的に解決しようとしたのである。約束とは、すなわち、アウグスブルク信仰告白によって従う私たちの信仰に反する者に対してその信仰に導かないこと、指一本偏向させないことである。」と記す。彼の悪魔とは皇帝軍の兵士でもカトリック側の聖職者たちでもない。前述したように純正ルター派の人たちであり、ブーゲンハーゲンを「アディアフォラ・ライター[19]」と呼んでいた者たちである。彼は、皇帝とのインテリムはあくまでも平和的に解決しようとしたからであって、カトリック信仰に偏向したわけではないことを強く述べている。ブーゲンハーゲンは、純正ルター派の者達が、ブーゲンハーゲン等に対して「・・彼らは世界中に公然と多くの書き物を書き、そこにはキリストの僕である我々神学者は、我々の為政者からお金を受け入れ、キリストの福音の裏切り者になっているとし、すべての良い秩序を見下し、我々が信仰から悪魔の教義、反キリストの礼拝へと離反しているとしています。」と評していることを記し、いかに純粋ルター派の者達の侮辱が激しかったかを懸命に王にわからせようとしていることが読み取れる。さらに「・・・著作において、偽善者達は私たちに対して、特に私に対して、キリストの名と義において次のことを誓わせます。彼らは自ら、キリストの裁きの座に座り、

[19] 「アディアフォラ・ライター」とは、フラキウス、アムスドルフなどがザクセンのアルベティン系の神学者たちを悪い意味で使っていた。当時、ヴイッティン家の領土はエルネスティン系とアルベルティン系に分割されていた。エルネスティン家の始祖である兄の選帝侯エルンストはザクセン＝ヴィッテンベルク公国と選帝侯位、及びテューリンゲン方伯領を確保しアルベルティン家の始祖である弟のアルブレヒト3世はマイセン辺境伯領を与えられていた。16世紀に選帝侯位及び領土の大半を没収されるまではエルネスティン家がアルベルティン家に対し圧倒的な優位を誇っていた。しかし、エルネスティン家の領土は皇帝与党であるアルベルティン系のザクセン公モーリッツに譲渡させられた。

私の良心を裁き、- 私の主キリストの御前で公正な判断を誓います- と私に言わせて、キリストの裁きを下します。彼らは他のことも誓わせようとします。・・・・・博士ポンメルン氏は真実に反して、また、彼自身の良心に反して行っています・・」と記している。彼は彼らに「ポンメルン氏」と名指しされた上で、「キリストの裁きを下す」とまで言われるほど、猛烈な個人攻撃を受けていたことが推察できる。彼の自尊心はどんなに傷つけられていたことであろうか。

いったい、ブーゲンハーゲンはルターの教説を棄てるまで偏向したのかを、考えてみよう。確かに、ルターの後継者であったメランヒトンは1527年までにはルターの人間の自由の否定に共感を失い、救いは人間の意志の協力的行為によってのみ可能であるという結論に達しており、1535年までには救いのための代価としてではないにせよ、救いの不可欠な証拠としての善行を強調するようになっていた。主の晩餐について、彼はルターの主張はあまりにもキリストの身体的現存を強調しすぎているように感じていた。しかし、ルターが生存中は、メランヒトンはルターと決裂には至らなかったものの、ルターの死後、1548年のアディオフォラ論争、聖餐論、救いに対して人はどう協同するか、など、次々に問題にした。他方、ブーゲンハーゲンはあくまでも信仰による義認の教えを福音とするルターの教説を堅持し、またキリストの身体的現存を依然として主張してきた。彼はルターの教説を棄ててはいるわけではなかった。またメランヒトンの思想を支持しているのでもなかった。彼はルターの教説を棄てる云々よりも、争いを見たくなく、起こしたくないという彼の平和への切なる思いが勝っていたと推察する。

ブーゲンハーゲンは恐らく、インテリムが出されて以降、自分の行動を弁明できず、悶々としながらもヴィッテンベルクでの自分の務めを粛々とこなしていたと考えられる。彼は常にヴィッテンベルクと共に歩いてきた。すなわち、ヴィッテンベルクの市教会の牧師を務め、またヴィッテンベルク大学での教員生活、そしてこれまで、ルターと共にこの町で宗教改革の促進を願いつつ歩いて生きた。彼にとっては、愛するヴィッテンベルクを守ることが最優先だったと考えられる。他方、彼はルターの保護者としてザクセン選帝侯との関わりは強かった[20]。故に、シュマルカルデン戦争終結にあたり、ザクセン選帝侯が退位せざるを得ない事態になり、このことはブーゲンハーゲンにとって選帝侯を裏切ったような責めを感じたことも否めない。他方、アムスドルフやフラキウス等、マグデブルクの純正ルター派の人たちには彼のカール5世への服従と映り、赦せないものとなったのは当然であろう。ヴィッテンベルクは皇帝側の手に落ち、住民の不安は募った。1550年に彼はヨナ書の注解をしているが、彼の心境は、まさに、4章10節以下の聖句のそのものであったことであろう。すなわち、「お前は自分で労することも育てることもなく、一夜にして生じ、一夜にして滅びたこのとうごまの木さえ惜しんでいる。それならば、どうしてわた

[20] フリードリヒ賢公はエルネスト系の出でヴィッテン家のアルブレヒトと協同でザクセンを統治した。彼はヴィッテンベルク大学を創設し、ルターの強力なパトロンであった。1525年に彼が亡くなった後、弟のヨハン1世が後を継いだが、既に熱心なルター派の信徒で、教会に対する自らの権威を行使して、領内の教会にルター派の宗教信条を採用し、カトリックの宗教信条を守る聖職者を追放し、ルターの考案した典礼を行わせた。ヨハンは1531年、宗教改革に反対するカール5世の圧迫に対抗して共同でプロテスタントの大義を守るため、他のプロテスタント諸侯と一緒にシュマルカルデン同盟を結成した。1532年に彼が亡くなると、選帝侯位はその長男のヨハン・フリードリヒに受け継がれた。ヨハン・フリードリヒは父と同様にシュマルカルデン同盟の指導的諸侯の一人であり、1542年にナウムブルク司教領を占拠し、マイセン司教領とヒルデスハイム司教領を攻撃して同司教領の世俗財産を強奪した。ザクセン選帝侯領ではカトリック信仰は厳しく弾圧され、カトリックの教会や修道院は略奪の対象になった。しかしヨハン・フリードリヒは1547年4月24日、エルベ河畔のミュールベルクの戦いで皇帝カール5世に敗れ、捕虜となった。5月19日のヴィッテンベルクの降伏文書の調印により、ヨハン・フリードリヒはザクセン選帝侯位及びザクセン＝ヴィッテンベルク公国を、皇帝与党であるアルベルティン系のザクセン公モーリッツに譲渡させられた。しかし、ヨハン・フリードリヒは生涯、福音信仰は揺るがなかったという。

しがこの大いなる都ニネベを惜しまずにいられるだろうか。そこには12万以上の右も左もわきまえぬ人間と、無数の家畜がいる。」である。すなわち、これは神がヨナにニネベの町について答えた言葉であるが、ブーゲンハーゲンにとって、右も左もわきまえぬ人間のいるニネベは、まさにヴィッテンベルクそのものであったことであろう。皇帝側の手に落ちようとしたヴィッテンベルク大学は閉鎖された。マグデブルクへ逃げた純粋ルター派の学者たちのように、ブーゲンハーゲンには逃げる道もあった。しかし、彼はヴィッテンベルクに残り、住民を励まし、慰める務めを果たすという道を選んだ。この当時、彼は数件の小冊子を書いて戦争の記録をしている。そしてヴィッテンベルクの住民に説教をとおして個人的な安全を求めて逃げるのではなくプロテスタントの将来を深く思い、留まるように求めている。とにかく、当時、大学もヴィッテンベルクの町も皇帝の手に渡る緊急事態であったことは否めないものだった。

戦争に勝利したカール5世はアウクスブルクに帝国諸侯、都市代表者を集め、ルター派を異端とする暫定協定の受諾を迫った。この時、マクデブルクだけが協定の受諾を拒否したため、皇帝はモーリッツを派遣して同市を包囲させた[21]。このような経緯があり、ヴィッテンベルク大学の神学者たちに対してマグデブルクの神学者たちが「たとえ、ヴィッテンベルクの学校が何千になろうと、我々は悪となる彼ら[22]を許すよりも、罰することが正しいのだ。なぜなら、彼らの内の若者[23]は誤った意見に惑わされ、福音に反する教えにゆがめられているからである。そして彼らが故国に戻ったとき、彼らは他のキリスト教教会をすべて破壊するからである。」と評しているのも当然であろう。このヴィッテンベルクへの反駁にブーゲンハーゲンは彼らを「偽り」と「神への冒涜」をもった偽善者だとクリスチャン3世に告げている。恐らく、彼にとって何よりも大事なヴィッテンベルクが侮辱されたことへの怒りと腹立ちを、良き理解者、良き友と信じる王に訴えていると解せよう。しかも、この時、自分たちを攻撃しているのは、かつてヴィッテンベルクで同労者であり、尚更、彼には辛いことだということも王は理解してくれるであろうと思ったのであろう。心を許せる者として、彼は王に思いの丈を言葉に発したのであろう。彼は自分の今の心境を「・・私はこれまで敬虔で賢明な者たちがずっと試されてきた、沈黙や忍耐について知るように努めています。」とし、詩編39編「わたしは言いました。『わたしの道を守ろう、舌で誤りを起こさぬように。神に逆らう者が目の前にいるとき、私の口に、轡をはめておこう。わたしは沈黙を守り、善い事からもじっとして、私の悲しみは再び始まる』やローマの信徒への手紙12章9節「主は「復讐は私のすること、私が報復する」という言葉をあげて、神を信じつつ、彼のこれからの決意を示している。そして、彼はマグデブルクの者たちが、今、彼らが成していることは愚かなことだと気づき、そして神の裁きを恐れてくれたらと綴っている。しかし、同時に彼らに、ルカによる福音書23章34節の「父よ、おゆるしください。自分がなにをしているのか知らないのです。」という聖書箇所をあげて、彼らが自分たちの過ちに気づいたら、神への赦しを願うことが記されている。また自分は、マタイによる福音書5章11節「人々に悪口を浴びさせられて時、喜びなさい・・あなたがたの前の預言者達も、同じように迫害されたのであるから」という言葉に自分を鼓舞している。しかし、一方、彼は世間の評判についての嘆きも訴える。「世間は本当に私のことを聞いてくれはしない。」と記した。そして、その上で、クリスチャンに「私は陛下に申し上げたい。」と切り出し、彼の今の調和と一

[21] しかし、自身プロテスタントだったモーリッツは皇帝のやり方に許容できなかった。そこで、マクデブルクが降伏したかのように見せかけて包囲を解き、フランス王アンリ2世とシャンボール条約を結んで逆にアウクスブルクのカール5世を攻撃した。皇帝はインスブルックに逃亡し、弟のフェルディナント1世にモーリッツとの和平交渉を委ねた。1552年8月、パッサウでルター派を容認する旨の和平交渉が結ばれた。これは1555年のアウクスブルクの和議の原型となった。

[22] ブーゲンハーゲン達を指す。

[23] ヴィッテンベルクで学ぶ学生達を指す。

致について述べる。これが彼の見いだした今の彼の打開点であった。

この「調和と一致」について、彼がクリスチャン3世に知ってもらいたいことは、2点挙げることが出来よう。先ず、彼にはルターと共に歩いてきたヴィッテンベルクへの愛があった。そしてヴィッテンベルク大学を、そして大学の福音主義に基づく建学の精神を保持していきたいという強い思いがあった。彼はもちろん、シュマルカルデ戦争では、真の宗教のため正義の戦争としてプロテスタントを擁護した。しかし戦後は、ルターやヴィッテンベルクとは対立的であったモーリッツが新しくザクセン選帝侯になったことに対して、対立ではなく、和解《調和と一致》で臨んだ。事実、彼は、皇帝に味方し、ザクセン選帝侯位と広大な領地を得たモーリッツを受け入れたが、それはモーリッツがヴィッテンベルク大学の再開を保証した[24]からであり、それによって大学においてルターの改革の精神をこれからも自由に伝えられることを優先したからであった。第二に、アディオフォラについての非難についての回答である。ブーゲンハーゲンは、1549年、インテリム採用のための感謝の礼拝を行った。インテリムでは、古い七つのサクラメントを守り、古い礼拝様式に戻り、聖火を再び点し、司祭服を着用し、聖餐における高挙を再び執行する条項であった。もちろん、カトリック信仰に逆戻りしたような彼の行為に、かつての同労者たちが非難したのは当然であろう。書簡の中で、彼は「・・彼らは騒ぎ立てます。『あなたはライプチヒのインテリムに答えなければならない！』と。」と彼らの非難の様子を記している。しかし彼はこれに対して「私は答える必要も、それに反対か賛成かを答える必要もない。」ときっぱりと答えている。彼は、かつてのヴィッテンベルク騒動の際の急進的な改革が引き起こす悲惨さを思い起こし、また、宗教の名の下に引き起こされた力による戦争の残酷さを体験し、この争いによる騒動の解決策を模索してきたことが考えられる。そしてついに彼が出した答えは、「反対か賛成か」という不一致、不調和よりも、妥協しながらも調和へと進む道だったのである。そして、彼は王に最後に今の自分の心境を一冊の書物『ヨナ書講解』を託すことを告げる。これは「今や、あなたは沈黙し、教会の苦痛に答えようともしないのだ」という批判を浴びている中で、彼が出した答えだった。彼は、ヴィッテンベルク市は陥落したけれども、大学は再開することができ、そこで、「••私たちは公に、（キリスト教の）教義を・・神聖ローマ帝国にある人々及び、帝国外にいる人々、すべての人々の救いのため、その救いについて教えています。」と堂々と語っている。そして、最後にトリエント公会議について、これは「キリストの前に神を冒涜するもの」だとし、彼らは「聖なる聖書」にないことに従っていて、「プライド、厚顔、誤った信仰に」立っていると批判し、プロテスタントに強制するローマ・カトリック教会の試みを非難してブーゲンハーゲンはあくまでも福音主義を貫くことを表明している。最後に彼は「閣下は私の（述べたい）ことがお分かりでしょう。」として、「キリストは地獄のすべての門に抗して、教会を守ろうとしている」と結んでいる。

以上、彼の書簡について検証してきたが、この書簡は他の誰でもない信頼するクリスチャン3世には自分のことを理解してもらいたいという切なる思いが先ずあった。その上で、彼の手紙の意図はシュマルカルデン戦争とインテリムの間の彼の行動について批判、中傷があるが、それはあくまでも自分は調和と一致を貫き、ヴィッテンベルクを守るための行動であったことを訴えることであった。繰り返すが、彼にとって大事なことは、ルターと共に宗教改革運動を進めてきたヴィッテンベルクの町を、大学を、教会を守ることであった。1522年に熱狂主義者たちが学校の教師や人々に、内在する精神には形式的教育は不必要だと説いて回ったとき、彼は、一教育者として教育の効果、キリスト者がこれから生きていくために教育が必要であるとして、急

[24] モーリッツはブーゲンハーゲンに、純粋な福音を教え、教皇派の進展を許さず、誤った福音を罰することを保証すると共に、ヴィッテンベルク大学の改善を約束したのだった。

進派に反対し、学校に残っている学生達を励まし、大学での彼の講義を続けた[25]。ヴィッテンベルク市はルターがヴァルトブルク城から急遽、帰還し彼自身の説教によって平静を取り戻すことができ、ルターを中心にして改革者たちによって漸次的に改革が行われていくことになった。ブーゲンハーゲンはヴィッテンベルク市の学校に再び、生徒たちを呼び集め、学校の再建に大いに力を発揮し大学の講義も休むことなく続けた。1527年、ヴィッテンベルクでペストが流行したとき、大学は一時、イエナへ移ったが、彼はヴィッテンベルクに残っている学生達のために講義をし続けた。その後、イエナからヴィッテンベルクにて大学を再開するにあたって、彼は尽力し、カール５世の圧力に対抗して宗教改革陣営の団結のために企図された1529年のマールブルク会談も、翌年のアウグスブルクの帝国議会にも、彼はヴィッテンベルクに留まっていた。それは「牧師ポメルンは留まった、それは学校を守り、教会を牧する者が誰かいるためであった」と彼の友人Ｊ．ヨーナスが評している。彼はさまざまな箇所で教会形成のために尽くしたが、しかし、あくまでもヴィッテンベルク市の主任牧師として、大学の教員としてその務めを果たそうとしたと考える。

４．総括

本稿ではブーゲンハーゲンが彼と長く親交があり、お互いに信頼しあっていたとみられるデンマーク王クリスチャン３世に宛てた書簡を通して、彼の当時の心境を考察した。1550年に執筆されたこの書簡はルターの死によって味わった彼の大きな喪失感の中、シュマルカルデン戦争によってヴィッテンベルクが皇帝側の手に落ちるという屈辱感と敗北感、さらにルター派内の分裂による心痛、また皇帝のインテリムの強制の中、同労者だった者たちから「妥協した」者と非難された彼の孤独感と孤立感が読み取れるものであった。この書簡はルターの死から４年、そしてシュマルカルデン戦争終結から３年も経ているものである。にもかかわらず、彼が精神的になかなか立ち直れていないことが読み取れるのは、その苦しみ、つらさの大きさは計り知れないものだったからであろう。そして今、「調和と一致」という解決の光をみた彼は、最も信頼を寄せる王へ自分の立場、そして自分の思いをなんとか知らせたかったのであろう。尚、この書簡はルター派の分裂時の歴史的証言としても重要な史料であることも確かなことであると考える。今後、さらにインテリムの時の彼の心境を理解するために彼の『ヨナ書講解』を研究史料として用いて、研究をさらに進めたいと考えている。

[25] 後にメランヒトンもルターも彼の態度に感謝した。

一次史料

Bugenhagen,Johannnes, Dr.Johannnes Bugenhagens Briefwechsel,edited by Otto Volgit.Stettin,1888

Bugenhagen,Johannnes,Epistola Apologetica ad Daniae et Norvegiae Regem,Glorisissiamae memoriae,Christianum III &.,Contra Scriptores adiaphoristicos,Aliosque Obtrectores,(the first of October,1550)

Bugenhagen,Johannnes(Selected Writings,Vol.1,Vol.2),edited by Kurt K.Hendel,2015

Karl Lanz,Correspondenz des Kaisers Karl V, II,(Leipzig,1845

参考文献

E.H.Dunkley, The Reformation in Denmark, London, 1948

Martin J.Lohrmann, Bugenhagen's Jonah, Mineapolis, 2012,

Walter M.Ruccius,John Bugenhagen Pomeranus; A Binographical Sketch, 2015

Paul Douglas Lockhart, Denmark, 1513-1660, Oxford, 2007

Andrew Pettegree(ed.),The Early Reformation in Europe, New York, 1992

Infried Garbe, Hainrich Kroger(ed.), Johannnes Bugenhagen, Leipzig, 2010

角田文衛（編）『北欧史』山川出版、1955
石原謙『宗教改革者ルターとその周辺』新教出版社、1967
Ｐ．ブリックレ『ドイツの宗教改革』田中真造／増本浩子（訳）、教文館、1991
ウィリストン・ウォーカー『宗教改革』塚田理／八代崇（訳）、ヨルダン社、1983
伊勢田奈緒「キリスト教擁護者としての皇帝カール五世についての一考察」『和泉短期大学研究紀要』第 26 号、2006 年 3 月、1 ～ 10 頁
伊勢田奈緒「宗教改革者ブーゲンハーゲンの目指した教育改革についての一考察―ブーゲンハーゲン自身の生き方を支えたもの　―」『キリスト教年報』第 2 号、2014 年 3 月、17 ～ 28 頁

コミュニケーションについてのアンケート・結果報告

短期大学部現代コミュニケーション学科　柴　田　　敏

これは、2015 年 11 月に、静岡英和学院大学人間社会学部「キリスト教学」、および静岡英和学院大学短期大学部「キリスト教と現代」の受講生に対して実施した「コミュニケーションについてのアンケート」の結果報告である。

実施日と授業名は下記のとおりである。

11 月 13 日（金）4 時限「キリスト教と現代」（現代コミュニケーション学科）
13 日（金）5 時限「キリスト教と現代」（食物学科）
16 日（月）5 時限「キリスト教学」（コミュニティ福祉学科優先）
17 日（火）4 時限「キリスト教学」（人間社会学科優先）

また、回答数は下記のとおりである。

人間社会学部（数字は左から　男性 / 女性 / その他 / 無記入）

	人間社会学科	コミュニティ福祉学科	学科無記入	計
1 年	31 / 46 / 0 / 0	9 / 44 / 1 / 3	3 / 7 / 2 / 0	146
2 年	3 / 2 / 0 / 0	1 / 0 / 0 / 0	0 / 0 / 0 / 0	6
3 年	0 / 0 / 0 / 0	1 / 2 / 0 / 0	0 / 0 / 0 / 0	3
4 年	0 / 0 / 0 / 0	1 / 1 / 0 / 0	0 / 0 / 0 / 0	2
計	82	63	12	157

上記以外に、人間社会学科に学年無記入のもの 2（0 / 0 / 1 / 1）がある。

短期大学部（数字は左から　男性 / 女性 / その他 / 無記入）

	現代コミュニケーション学科	食物学科	学科無記入	計
1 年	4 / 61 / 0 / 0	2 / 70 / 0 / 0	0 / 11 / 0 / 0	148
2 年	0 / 1 / 0 / 0	0 / 1 / 0 / 0	0 / 0 / 0 / 0	2
計	66	73	11	150

上記の表に入らないものとして、学部・学科・学年・性別無記入のものが 1 ある。

次に、各学科ごとのまとめを示す。

コミュニケーションについてのアンケート

学部　人間社会学部
学科　人間社会学科
学年　1年・2年・無記入
性別　男性・女性・無記入
人数　84名

Ⅰ　コミュニケーションが得意かどうか

得意だと思う	4名	まあ得意	14名
普通だと思う	29名	少し苦手	23名
まったく苦手	13名		

Ⅱ　苦手なコミュニケーション（複数回答）

ⓐ　同世代の同性とのコミュニケーション……19名
ⓑ　同世代の異性とのコミュニケーション……33名
ⓒ　年下の世代とのコミュニケーション……33名
ⓓ　年上の世代とのコミュニケーション……30名
ⓔ　よく知らない人とのコミュニケーション……49名
ⓕ　外国の人とのコミュニケーション……43名
ⓖ　その他（具体的に書いてください。）……2名
ⓗ　苦手なものはない……5名

Ⅲ　この先身に付けたいコミュニケーションに関わる能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……48名
ⓑ　日本語の会話力・話術……47名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……43名
ⓓ　豊富な話題……40名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……48名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……3名
ⓖ　身に付けたいものはない。……1名

Ⅳ　大学・短期大学部に入学して身に付いたコミュニケーション能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……15名
ⓑ　日本語の会話力・話術……31名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……27名
ⓓ　豊富な話題……25名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……25名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……3名
ⓖ　身に付いたものはない。……28名

Ⅴ　キリスト教について知ることで得たもの

コミュニケーションについてのアンケート

学部　人間社会学部
学科　コミュニティ福祉学科
学年　1・2・3・4年
性別　男・女・その他・無記入
人数　63名

Ⅰ　コミュニケーションが得意かどうか

得意だと思う	6名	まあ得意	7名
普通だと思う	22名	少し苦手	18名
まったく苦手	10名		

Ⅱ　苦手なコミュニケーション（複数回答）

ⓐ　同世代の同性とのコミュニケーション……21名
ⓑ　同世代の異性とのコミュニケーション……27名
ⓒ　年下の世代とのコミュニケーション……14名
ⓓ　年上の世代とのコミュニケーション……22名
ⓔ　よく知らない人とのコミュニケーション……33名
ⓕ　外国の人とのコミュニケーション……35名
ⓖ　その他（具体的に書いてください。）……7名
ⓗ　苦手なものはない……5名

Ⅲ　この先身に付けたいコミュニケーションに関わる能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……38名
ⓑ　日本語の会話力・話術……35名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……27名
ⓓ　豊富な話題……30名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……33名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……1名
ⓖ　身に付けたいものはない。……0名

Ⅳ　大学・短期大学部に入学して身に付いたコミュニケーション能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……12名
ⓑ　日本語の会話力・話術……15名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……12名
ⓓ　豊富な話題……15名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……13名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……1名
ⓖ　身に付いたものはない。……24名

Ⅴ　キリスト教について知ることで得たもの

コミュニケーションについてのアンケート

学部　短期大学部
学科　現代コミュニケーション学科
学年　1・2年
性別　男性・女性
人数　66名

Ⅰ　コミュニケーションが得意かどうか

得意だと思う	4名	まあ得意	13名
普通だと思う	20名	少し苦手	26名
まったく苦手	3名		

Ⅱ　苦手なコミュニケーション（複数回答）

ⓐ　同世代の同性とのコミュニケーション……11名
ⓑ　同世代の異性とのコミュニケーション……29名
ⓒ　年下の世代とのコミュニケーション……18名
ⓓ　年上の世代とのコミュニケーション……21名
ⓔ　よく知らない人とのコミュニケーション……35名
ⓕ　外国の人とのコミュニケーション……28名
ⓖ　その他（具体的に書いてください。）……4名
ⓗ　苦手なものはない……3名

Ⅲ　この先身に付けたいコミュニケーションに関わる能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……30名
ⓑ　日本語の会話力・話術……42名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……32名
ⓓ　豊富な話題……25名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……32名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……1名
ⓖ　身に付けたいものはない。……1名

Ⅳ　大学・短期大学部に入学して身に付いたコミュニケーション能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……9名
ⓑ　日本語の会話力・話術……27名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……31名
ⓓ　豊富な話題……11名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……11名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……5名
ⓖ　身に付いたものはない。……8名

Ⅴ　キリスト教について知ることで得たもの

コミュニケーションについてのアンケート

学部　短期大学部
学科　食物学科
学年　1・2年
性別　男・女
人数　73名

Ⅰ　コミュニケーションが得意かどうか

得意だと思う	2名	まあ得意	8名
普通だと思う	30名	少し苦手	24名
まったく苦手	9名		

Ⅱ　苦手なコミュニケーション（複数回答）

ⓐ　同世代の同性とのコミュニケーション……16名
ⓑ　同世代の異性とのコミュニケーション……31名
ⓒ　年下の世代とのコミュニケーション……15名
ⓓ　年上の世代とのコミュニケーション……26名
ⓔ　よく知らない人とのコミュニケーション……48名
ⓕ　外国の人とのコミュニケーション……41名
ⓖ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓗ　苦手なものはない……3名

Ⅲ　この先身に付けたいコミュニケーションに関わる能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……31名
ⓑ　日本語の会話力・話術……43名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……42名
ⓓ　豊富な話題……27名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……42名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……2名
ⓖ　身に付けたいものはない。……0名

Ⅳ　大学・短期大学部に入学して身に付いたコミュニケーション能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……6名
ⓑ　日本語の会話力・話術……16名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……19名
ⓓ　豊富な話題……9名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……10名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……4名
ⓖ　身に付いたものはない。……27名

Ⅴ　キリスト教について知ることで得たもの

アンケートを実施した授業が、1年次配当のものであるので、回収したアンケートの回答者も1年生が圧倒的に多い。そこで以下には、各学科の1年生の結果について、性別を加えてやや詳しく示すことにする。

コミュニケーションについてのアンケート

学部　人間社会学部
学科　人間社会学科
学年　1年
性別　男性
人数　31名

Ⅰ　コミュニケーションが得意かどうか

得意だと思う	0名	まあ得意	7名
普通だと思う	9名	少し苦手	7名
まったく苦手	7名		

Ⅱ　苦手なコミュニケーション（複数回答）

ⓐ　同世代の同性とのコミュニケーション……9名
ⓑ　同世代の異性とのコミュニケーション……13名
ⓒ　年下の世代とのコミュニケーション……12名
ⓓ　年上の世代とのコミュニケーション……8名
ⓔ　よく知らない人とのコミュニケーション……20名
ⓕ　外国の人とのコミュニケーション……19名
ⓖ　その他（具体的に書いてください。）……1名
・記入なし。
ⓗ　苦手なものはない……2名

Ⅲ　この先身に付けたいコミュニケーションに関わる能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……17名
ⓑ　日本語の会話力・話術……20名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……17名
ⓓ　豊富な話題……17名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……19名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……1名
・人を動かせるような交渉術
ⓖ　身に付けたいものはない。……0名

Ⅳ　大学・短期大学部に入学して身に付いたコミュニケーション能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……8名
ⓑ　日本語の会話力・話術……13名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……11名
ⓓ　豊富な話題……17名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……19名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……1名
・読心術
ⓖ　身に付いたものはない。……7名

Ⅴ　キリスト教について知ることで得たもの

・隣人愛の精神が身に付きました。
・人に何かしてもらった時に感謝する気持ちが、人に与える親切で人間関係に暖かみを感じられるようになった。
・特になし。（2名）
・なし。

コミュニケーションについてのアンケート

学部　人間社会学部
学科　人間社会学科
学年　1年
性別　女性
人数　46名

Ⅰ　コミュニケーションが得意かどうか

得意だと思う	3名	まあ得意	6名
普通だと思う	17名	少し苦手	15名
まったく苦手	5名		

Ⅱ　苦手なコミュニケーション（複数回答）

ⓐ　同世代の同性とのコミュニケーション……8名
ⓑ　同世代の異性とのコミュニケーション……18名
ⓒ　年下の世代とのコミュニケーション……18名
ⓓ　年上の世代とのコミュニケーション……21名
ⓔ　よく知らない人とのコミュニケーション……26名
ⓕ　外国の人とのコミュニケーション……23名
ⓖ　その他（具体的に書いてください。）……1名
・仲の良い家族以外とのコミュニケーションは全て苦手です。
ⓗ　苦手なものはない……2名

Ⅲ　この先身に付けたいコミュニケーションに関わる能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……28名
ⓑ　日本語の会話力・話術……23名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……22名
ⓓ　豊富な話題……21名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……26名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……2名
・相手に具体的に説明する力ポーカーフェイス
ⓖ　身に付けたいものはない。……1名

Ⅳ　大学・短期大学部に入学して身に付いたコミュニケーション能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……6名
ⓑ　日本語の会話力・話術……14名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……13名
ⓓ　豊富な話題……8名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……2名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……2名
・学校を楽しいと思える気持ち（1名記入なし。）
ⓖ　身に付いたものはない。……15名

Ⅴ　キリスト教について知ることで得たもの

・いろいろな考え方を知った。
・相手といつも優しくして、困ったら助ける。
・外国の映画や小説の物語をより深く楽しめるようになった。
・豊富な話題をたくさん分かりたいで（ママ）たくさん気の利く会話になると思う。
・特になし。（2名）

コミュニケーションについてのアンケート

学部　人間社会学部
学科　コミュニティ福祉学科
学年　1年
性別　男性
人数　9名

Ⅰ　コミュニケーションが得意かどうか

得意だと思う	0名	まあ得意	1名
普通だと思う	3名	少し苦手	2名
まったく苦手	3名		

Ⅱ　苦手なコミュニケーション（複数回答）

ⓐ　同世代の同性とのコミュニケーション……6名
ⓑ　同世代の異性とのコミュニケーション……7名
ⓒ　年下の世代とのコミュニケーション……5名
ⓓ　年上の世代とのコミュニケーション……5名
ⓔ　よく知らない人とのコミュニケーション……5名
ⓕ　外国の人とのコミュニケーション……5名
ⓖ　その他（具体的に書いてください。）……1名
・威圧的な人
ⓗ　苦手なものはない……0名

Ⅲ　この先身に付けたいコミュニケーションに関わる能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……4名
ⓑ　日本語の会話力・話術……4名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……3名
ⓓ　豊富な話題……5名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……3名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓖ　身に付けたいものはない。……0名

Ⅳ　大学・短期大学部に入学して身に付いたコミュニケーション能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……2名
ⓑ　日本語の会話力・話術……4名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……3名
ⓓ　豊富な話題……1名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……3名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓖ　身に付いたものはない。……4名

Ⅴ　キリスト教について知ることで得たもの

・特になし。
・ないです。
・なし。
・ない。

コミュニケーションについてのアンケート

学部　人間社会学部
学科　コミュニティ福祉学科
学年　1年
性別　女性
人数　44名

Ⅰ　コミュニケーションが得意かどうか

得意だと思う	5名	まあ得意	6名
普通だと思う	17名	少し苦手	12名
まったく苦手	4名		

Ⅱ　苦手なコミュニケーション（複数回答）

ⓐ　同世代の同性とのコミュニケーション……9名
ⓑ　同世代の異性とのコミュニケーション……15名
ⓒ　年下の世代とのコミュニケーション……7名
ⓓ　年上の世代とのコミュニケーション……15名
ⓔ　よく知らない人とのコミュニケーション……26名
ⓕ　外国の人とのコミュニケーション……25名
ⓖ　その他（具体的に書いてください。）……1名
・中学の時イジメに遭っていたため、中学の同級生が苦手
ⓗ　苦手なものはない……5名

Ⅲ　この先身に付けたいコミュニケーションに関わる能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……30名
ⓑ　日本語の会話力・話術……26名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……19名
ⓓ　豊富な話題……21名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……26名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓖ　身に付けたいものはない。……0名

Ⅳ　大学・短期大学部に入学して身に付いたコミュニケーション能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……8名
ⓑ　日本語の会話力・話術……10名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……7名
ⓓ　豊富な話題……9名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……9名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓖ　身に付いたものはない。……16名

Ⅴ　キリスト教について知ることで得たもの

・キリストの話をする事ができるようになった。
・とくになし。

コミュニケーションについてのアンケート

学部　人間社会学部
学科　コミュニティ福祉学科
学年　1年
性別　その他
人数　1名

Ⅰ　コミュニケーションが得意かどうか

得意だと思う	0名	まあ得意	0名
普通だと思う	0名	少し苦手	0名
まったく苦手	1名		

Ⅱ　苦手なコミュニケーション（複数回答）

ⓐ　同世代の同性とのコミュニケーション……1名
ⓑ　同世代の異性とのコミュニケーション……0名
ⓒ　年下の世代とのコミュニケーション……0名
ⓓ　年上の世代とのコミュニケーション……0名
ⓔ　よく知らない人とのコミュニケーション……0名
ⓕ　外国の人とのコミュニケーション……1名
ⓖ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓗ　苦手なものはない……0名

Ⅲ　この先身に付けたいコミュニケーションに関わる能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……0名
ⓑ　日本語の会話力・話術……0名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……1名
ⓓ　豊富な話題……0名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……0名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓖ　身に付けたいものはない。……0名

Ⅳ　大学・短期大学部に入学して身に付いたコミュニケーション能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……0名
ⓑ　日本語の会話力・話術……0名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……0名
ⓓ　豊富な話題……0名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……0名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓖ　身に付いたものはない。

Ⅴ　キリスト教について知ることで得たもの

コミュニケーションについてのアンケート

学部　短期大学部
学科　現代コミュニケーション学科
学年　1年
性別　男性
人数　4名

Ⅰ　コミュニケーションが得意かどうか

得意だと思う	0名	まあ得意	1名
普通だと思う	2名	少し苦手	1名
まったく苦手	0名		

Ⅱ　苦手なコミュニケーション（複数回答）

ⓐ　同世代の同性とのコミュニケーション……0名
ⓑ　同世代の異性とのコミュニケーション……1名
ⓒ　年下の世代とのコミュニケーション……1名
ⓓ　年上の世代とのコミュニケーション……2名
ⓔ　よく知らない人とのコミュニケーション……1名
ⓕ　外国の人とのコミュニケーション……0名
ⓖ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓗ　苦手なものはない……0名

Ⅲ　この先身に付けたいコミュニケーションに関わる能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……1名
ⓑ　日本語の会話力・話術……4名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……2名
ⓓ　豊富な話題……0名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……2名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓖ　身に付けたいものはない。……0名

Ⅳ　大学・短期大学部に入学して身に付いたコミュニケーション能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……1名
ⓑ　日本語の会話力・話術……4名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……2名
ⓓ　豊富な話題……0名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……2名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓖ　身に付いたものはない。……0名

Ⅴ　キリスト教について知ることで得たもの

・あいてにそんけすること（ママ）

コミュニケーションについてのアンケート

学部　短期大学部
学科　現代コミュニケーション学科
学年　1年
性別　女性
人数　61名

Ⅰ　コミュニケーションが得意かどうか

得意だと思う	4名	まあ得意	12名
普通だと思う	17名	少し苦手	25名
まったく苦手	3名		

Ⅱ　苦手なコミュニケーション（複数回答）

ⓐ　同世代の同性とのコミュニケーション……11名
ⓑ　同世代の異性とのコミュニケーション……28名
ⓒ　年下の世代とのコミュニケーション……16名
ⓓ　年上の世代とのコミュニケーション……19名
ⓔ　よく知らない人とのコミュニケーション……33名
ⓕ　外国の人とのコミュニケーション……28名
ⓖ　その他（具体的に書いてください。）……4名
- 何を話したら良いか分からない
- ノリがあまり伝わらない人とのコミュニケーション
- 見た目が怖い人とのコミュニケーション
- 初対面の人

ⓗ　苦手なものはない……3名

Ⅲ　この先身に付けたいコミュニケーションに関わる能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……29名
ⓑ　日本語の会話力・話術……38名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……30名
ⓓ　豊富な話題……25名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……29名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……1名
- どんな年代の人でも楽しく話せる

ⓖ　身に付けたいものはない。……1名

Ⅳ　大学・短期大学部に入学して身に付いたコミュニケーション能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……8名
ⓑ　日本語の会話力・話術……23名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……29名
ⓓ　豊富な話題……10名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……9名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……5名
- 正しい敬語の使い方
- 秘書学
- 空気を読む
- 積極的に挨拶をすること、話しかけること。
- 社会人としての日常の常識を更に細かくお願いします。（ある人は大丈夫ですが。）

ⓖ　身に付いたものはない。……8名

Ⅴ　キリスト教について知ることで得たもの
- 人に優しくなれた。
- 「人に温かくしなさい」という教えが印象的でした。
- たまに会話のネタにキリスト教で習ったことを話したりします。
- なし。（2名）

コミュニケーションについてのアンケート

学部　短期大学部
学科　食物学科
学年　1年
性別　男性
人数　2名

Ⅰ　コミュニケーションが得意かどうか

得意だと思う	0名	まあ得意	0名
普通だと思う	1名	少し苦手	1名
まったく苦手	0名		

Ⅱ　苦手なコミュニケーション（複数回答）

ⓐ　同世代の同性とのコミュニケーション……0名
ⓑ　同世代の異性とのコミュニケーション……1名
ⓒ　年下の世代とのコミュニケーション……0名
ⓓ　年上の世代とのコミュニケーション……1名
ⓔ　よく知らない人とのコミュニケーション……1名
ⓕ　外国の人とのコミュニケーション……1名
ⓖ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓗ　苦手なものはない……1名

Ⅲ　この先身に付けたいコミュニケーションに関わる能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……1名
ⓑ　日本語の会話力・話術……2名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……0名
ⓓ　豊富な話題……2名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……2名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓖ　身に付けたいものはない。……0名

Ⅳ　大学・短期大学部に入学して身に付いたコミュニケーション能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……1名
ⓑ　日本語の会話力・話術……1名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……1名
ⓓ　豊富な話題……0名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……1名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓖ　身に付いたものはない。……1名

Ⅴ　キリスト教について知ることで得たもの

・ない。

コミュニケーションについてのアンケート

学部　短期大学部
学科　食物学科
学年　1年
性別　女性
人数　70名

Ⅰ　コミュニケーションが得意かどうか

得意だと思う	2名	まあ得意	8名
普通だと思う	29名	少し苦手	22名
まったく苦手	9名		

Ⅱ　苦手なコミュニケーション（複数回答）

ⓐ　同世代の同性とのコミュニケーション……16名
ⓑ　同世代の異性とのコミュニケーション……29名
ⓒ　年下の世代とのコミュニケーション……15名
ⓓ　年上の世代とのコミュニケーション……25名
ⓔ　よく知らない人とのコミュニケーション……47名
ⓕ　外国の人とのコミュニケーション……40名
ⓖ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓗ　苦手なものはない……2名

Ⅲ　この先身に付けたいコミュニケーションに関わる能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……30名
ⓑ　日本語の会話力・話術……40名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……42名
ⓓ　豊富な話題……25名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……39名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……2名
・ボキャブラリーを豊富にしたい。
・相手が言おうとしていることをしっかり聞きとる力
ⓖ　身に付けたいものはない。……0名

Ⅳ　大学・短期大学部に入学して身に付いたコミュニケーション能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……5名
ⓑ　日本語の会話力・話術……15名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……18名
ⓓ　豊富な話題……9名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……9名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……4名
・周りに気を遣うことができるようになった。
・専門の知識
・きそく正しい生活
・積極性
ⓖ　身に付いたものはない。……25名

Ⅴ　キリスト教について知ることで得たもの

・他の学校の友達にキリスト教について話した。
・関係づくりに積極的に話ができるようになったと思っています。
・特になし。（2名）
・なし。（3名）
・ない。（2名）

最後に、人間社会学部、短期大学部それぞれの、学科について無記入の回答結果を示しておく。

コミュニケーションについてのアンケート

学部　人間社会学部
学科　無記入
学年　1年
性別　男性・女性・その他
人数　12名

Ⅰ　コミュニケーションが得意かどうか

得意だと思う	0名	まあ得意	3名
普通だと思う	6名	少し苦手	1名
まったく苦手	1名		

Ⅱ　苦手なコミュニケーション（複数回答）

ⓐ　同世代の同性とのコミュニケーション……2名
ⓑ　同世代の異性とのコミュニケーション……6名
ⓒ　年下の世代とのコミュニケーション……2名
ⓓ　年上の世代とのコミュニケーション……2名
ⓔ　よく知らない人とのコミュニケーション……6名
ⓕ　外国の人とのコミュニケーション……6名
ⓖ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓗ　苦手なものはない……0名

Ⅲ　この先身に付けたいコミュニケーションに関わる能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……8名
ⓑ　日本語の会話力・話術……5名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……4名
ⓓ　豊富な話題……3名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……3名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓖ　身に付けたいものはない。……1名

Ⅳ　大学・短期大学部に入学して身に付いたコミュニケーション能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……3名
ⓑ　日本語の会話力・話術……6名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……5名
ⓓ　豊富な話題……0名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……4名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓖ　身に付いたものはない。……2名

Ⅴ　キリスト教について知ることで得たもの

コミュニケーションについてのアンケート

学部　短期大学部
学科　無記入
学年　1年
性別　女性
人数　11名

Ⅰ　コミュニケーションが得意かどうか

得意だと思う	0名	まあ得意	1名
普通だと思う	5名	少し苦手	4名
まったく苦手	0名		

Ⅱ　苦手なコミュニケーション（複数回答）

ⓐ　同世代の同性とのコミュニケーション……2名
ⓑ　同世代の異性とのコミュニケーション……2名
ⓒ　年下の世代とのコミュニケーション……2名
ⓓ　年上の世代とのコミュニケーション……3名
ⓔ　よく知らない人とのコミュニケーション……5名
ⓕ　外国の人とのコミュニケーション……4名
ⓖ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓗ　苦手なものはない……0名

Ⅲ　この先身に付けたいコミュニケーションに関わる能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……6名
ⓑ　日本語の会話力・話術……4名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……5名
ⓓ　豊富な話題……4名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……6名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓖ　身に付けたいものはない。……0名

Ⅳ　大学・短期大学部に入学して身に付いたコミュニケーション能力（複数回答）

ⓐ　外国語の力……3名
ⓑ　日本語の会話力・話術……3名
ⓒ　日本語の敬語についての知識……4名
ⓓ　豊富な話題……1名
ⓔ　気の利いた会話をするセンス……1名
ⓕ　その他（具体的に書いてください。）……0名
ⓖ　身に付いたものはない。……4名

Ⅴ　キリスト教について知ることで得たもの

なお、自由記述欄について、2年生以上の回答を以下に示しておく。

3 g	全員と苦手（コミュニティ福祉・3・男性） 人見知り（コミュニティ福祉・3・女性） 自分と合わなそうな人（コミュニティ福祉・4・女性）
4 f	人と会話ができるようになる。（コミュニティ福祉・3・男性）
5 f	人と会話ができなくなるセンス（コミュニティ福祉・3・男性）
6	キリスト教徒多すぎてうざすぎ、会話できない、日本語でよろ（ママ）（コミュニティ福祉・3・男性） キリスト教はあまり関係ない（コミュニティ福祉・4・男性）

遺憾ながら、今回は以上のような初期的な報告しかできない。
そこから導き出せる荒い分析としては、以下のようなことが上げられる。

- 女性よりも男性のほうが、コミュニケーションに関して自信を持っていない（苦手意識を持っている）。
- 多くの項目について、学科ごとの差が見いだしにくい中で、現代コミュニケーション学科の学生は、項目5gの、「（入学して）身に付いたものはない。」という回答が目立って低い。（つまり、何か身に付けたと自覚している割合が高い。）

より詳しい分析は他日を期すこととし、アンケートの実施にご協力いただいた伊勢田奈緒先生に感謝申し上げて、この報告を終える。

「情報とコミュニケーション」技術（ICT）の礼拝や伝道への利用について～利用状況等に関する基礎資料その１の覚書～

静岡英和学院大学コミュニティ福祉学科　中　原　陽　三

１．はじめに

「情報とコミュニケーション」技術（ICT）は神様が起こし、神様が進展させ、神様にその存在を赦されている。神様は、人をも使い、それをどのように礼拝や伝道にお用いになっているのだろうか。救われた者は、神様の圧倒的な先導と支えを受け、どのようにそれらを礼拝や伝道・宣教に用いているのだろうか。その現状のある程度の認識を神様から与えていただければ、それを土台に、聴覚・視覚・体力・知力・経験・識字・言語その他に関して多様な方々に対する、よりフィットした、より強力な、あるいは、もうひとつ別の「礼拝や伝道のあり方」が、神様からさらに示されるかもしれない。

御心ならば、本稿では、ICT の宣教（礼拝や伝道）への利用に関する「現状認識のための本調査へ向けた予備調査」の端緒として、キリストを信ずる筆者の経験やインターネットなどから得られる情報の一部を整理し、「基礎資料の一部」のたたき台として提示する。

２．ICT の進展と社会への影響

本章では、ICT と社会の現状を、３つの切り口で振り返る。これ以外の切り口は、宣教への利用との関連性に応じて、別の機会とする。特に、DAISY、EPUB の進展は見逃せないが、本稿では割愛する。

（ア）情報通信白書平成 26 年版 [1][2] から

情報通信白書平成 26 年版 [1][2] において総務省が種々のデータに基づき詳細に説明しているように、この 10 年余りの間、ICT の急速な浸透と、それに伴う経済・社会の地球規模での大変革が起きている。インターネット、携帯電話、スマートフォン、SNS の急速な浸透と、それに伴う大変革である。

なお、総務省は、これらを地球規模のパラダイムシフトととらえており、同白書第１部第１章でその見解を次のように明記した上で、同白書の目的を明らかにしている；「ICT は、その能力の指数関数的な向上及び価格低下に伴い、世界全体に急速に浸透し、ICT 産業にとどまらず、他の産業や社会全体、企業のビジネスモデル、個人のライフスタイルなど様々な領域で大きな変化をもたらしている。（途中省略）本年の情報通信白書では、これら ICT の全世界的かつ生活のあらゆる局面での浸透とそれに伴う不可逆的な経済・社会的な大変革をパラダイムシフトととらえ、その進展状況と今後の動向を展望する。」（[1] の第１部「第１章地球的規模で浸透する ICT」（2 頁）より抜粋引用）。

（イ）インターネット動画配信サイトの最近の動向

Google ハングアウトは、Goolge トーク（2005 年 8 月（日本語版は 2006 年 5 月）に Google から公開されたインスタントメッセンジャー）の後継として、2013 年 5 月に公開された統合コミュニケーションシステム [3] で、テレビ電話や 10 人までのテレビ電話会議などの双方向コミュニケーション機能、ならびに、「ハングアウト オンエア」と呼ばれるインターネットライブ配信機能を、PC、iPhone、Android から利用できる [4]。

また、2013 年、Google は、それまで 100 人以上の登録者を持つチャンネルでのみ利用

可能としていたYouTube Live（YouTubeのライブストリーミング機能）を、一般ユーザに開放した[5]。

Ustreamやその他の動画配信サイトについては、本稿では参考文献提示に留める[6][7][8]。

（ウ）生活実感の一部から

2015年度において、静岡英和学院大学で接する学生のほぼ100%がスマートフォンを携帯しているように見える。教職員は、少なくとも携帯電話（スマートフォンではない）は数年前から100%に近い方が携帯していると思われる。ただし、データ取得の厳密な調査をしたわけではない。

3．礼拝・伝道でのICT利用事例等（一部）

本章では、筆者の経験やインターネットなどから得られる利用事例等の一部を整理し、「基礎資料の一部」のたたき台として提示する。ただし、網羅は今後の課題とする。

まず「礼拝中のICT利用事例等」と「礼拝中に限らない場面・時における利用事例等」に分類し、さらに項目に分け、事例等を列挙する。

（ア）礼拝中のICT利用事例等

①礼拝中の音響設備（マイク、アンプ、スピーカ、補聴用ワイヤレスシステムなど）利用

肉声や生の音を補強し、聴覚を技術によってサポートする音響設備を、必要に応じて設置することに対し、違和感を覚えている教会（キリスト教）を、経験上およびWeb上において、筆者は知らない。すなわち、この点におけるICTの利用は当然のごとくに受け入れられている。音響設備の歴史は古く、利用者が機能を知り尽くしており、利用における危険性の有無について十分認識できるという特徴、および、社会ですでに道具となっているという特徴を持つ。この特徴については自動車も同様であり、自動車も当然のごとく宣教に利用されてきた。

日本キリスト教団静岡教会[9]（佐々木美知夫主任牧師）では礼拝時にマイク、アンプ、スピーカを利用し、録音も実施している（筆者は2007年より同教会教会員）。「教会内の教育館（会堂とは別の建物）の一室への礼拝音声中継」も可能である。

また、インマヌエル システムは、日本の10以上の教会へ音響設備を設置した[10]。同社が補聴用ワイヤレスシステム増設を実施した教会もある[11]。

日本福音ルーテル教会[12]は、2012年4月の日付の文書LAOS講座別冊「人生6合目からの歩み」[13]の49頁～51頁において、所属する教会のうち、約50の教会からの「教会で現在実施されている高齢書へのケア」についてのアンケート回答をまとめている。これによると、実施された項目に、各部屋に音声中継、イヤホン型受信機の貸出、難聴者用無線システムの導入、ならびに、感度の良い補聴器の設置が含まれている。これらは、礼拝中の音響設備利用と思われる。

静岡英和学院大学では、新館5Fの礼拝堂で学期期間中に礼拝と賛美を毎週捧げる[14]際に、マイク等も使用している（マイクの利用については、新館ができる以前の礼拝でも、筆者の知る2001年以降、同様であった）。また、録音した音声も流すことができ、クリスマス礼拝などで使用している。

青山学院の米山記念礼拝堂（初等部）、ガウチャー記念礼拝堂（大学・青山キャンパス）、ウェスレー・チャペル（大学・相模原キャンパス）、ならびに、本部のベリーホール・チャペル（チャールズ・オスカー・ミラー記念礼拝堂）は、それぞれのパイプオルガンのストップアクションに電子技術が用いられる（ウェスレー・チャペルはメカニカルと併用）[15]ので、ICTを利用しているとも言える。

②礼拝中における映写・投影機（プロジェクタ、OHP）利用

日本キリスト教団呉平安教会[16]（小林克哉牧師）からインターネット配信されている礼拝中継録画の中に、賛美歌の歌詞を礼拝堂前方に映し、御言葉カードを大きく映す様子があり、プロジェクタを用いていると思われる[17]（カード映写は[17]の14分48秒からしばらく続く）。

日本イエス・キリスト教団荻窪栄光教会では、礼拝中に主の祈り、使徒信条、交読文などを映しているが、プロジェクタを使用していると思われる [18]。

また、OHP（オーバーヘッドプロジェクタ）を使う礼拝は、1982 年頃から筆者が KECF（Keio Evangelical Christian Fellowship）[19] に所属していたとき、メンバーの教会の礼拝に順に皆で参加させていただいた活動中等にも経験したかもしれない（OHP ではないが大画面を使う教会は 2 つあったような記憶がある）が、その後 1989 年 4 月から 2007 年 3 月までの間に幾度となく経験したことがある。1989 年 3 月までその頃通っていた日本バプテスト連盟品川バプテスト教会（1985 年受洗）の礼拝では OHP の利用はなかった。当時 OHP を利用する礼拝は、「礼拝を大切にしつつ、比較的多人数による、比較的大きな会堂での、いわゆる伝統的な、昔ながらの礼拝形式を重んじるような礼拝」ではなかったような個人的印象がある。『「礼拝を大切にしつつ、ギターでの賛美なども取り入れ、利用させていただけるものはありがたく利用させていただく、というような姿勢」の、少人数の手作りの礼拝』に、OHP も登場する、といったような印象である。なお、OHP は PC 等と連動して使うプロジェクタとは異なるものの、コミュニケーションツールではあることから、ICT 利用の一形態として項目に加えた。

③礼拝中における、教会内外への礼拝中継技術の利用

日本福音ルーテル教会による前述の「人生 6 合目からの歩み」[13] の 49 頁～ 51 頁では、FM ラジオでの受信、および、テレビ中継という項目も挙げられている。

日本キリスト教団呉平安教会では、Ustream を利用した礼拝中継を毎週日曜日 10 時 30 分から行っており [16]、インターネットの環境があれば自宅病床からでも視聴できる。

日本キリスト教団静岡教会では、幼い子を連れた保護者等の礼拝に配慮して、「教会内の教育館（会堂とは別の建物）への礼拝中継」を、LAN を利用して、主日礼拝毎に実施している（2015 年 10 月 4 日から実験的に開始し、すぐに運用を整えて現在に至る）。送葬式で会堂が溢れるときがこれまであり、そういった際の利用も念頭に整備された。2015 年 12 月 24 日のクリスマス音楽礼拝時には、会堂に入りきれない方への対応準備として、席を用意した教育館の一室へ、音楽礼拝の映像と音声を中継した。その際はプロジェクタとスクリーンを利用したが、毎日曜は TV 液晶モニタを利用している。

中国大連の玉光街礼拝堂（大連市基督教玉光街礼拝堂として Google マップで検索可）では、2011 年 4 月 24 日（日）のイースターの段階で、プロジェクタを用いて、教会に近いビルの一室へ礼拝を生中継していたようである [20]。

日本ホーリネス教団サイト内の宣教局国内宣教の頁 [21] における、IT 宣教担当　佐伯真氏の「牧師不足を補う IT の可能性」と題する文章には、PC モニタ、プロジェクタ、または液晶テレビへの礼拝中継を同教団のある教会（佐伯真氏の所属教会と思われる）で 5 年間続けていることの記載がある（同ページの兼牧支援制度に関する記事から、2015 年 4 月から 6 月までの間に書かれた文章と推測される）。

④礼拝中における、電報の利用

送葬式で、弔電が紹介されることがある（日本キリスト教団静岡教会）。

（イ）礼拝中に限らない場面・時における宣教・伝道への ICT 利用事例等

①礼拝堂音響設備

直接的な伝道のための利用ではないが、伝道に結びつく可能性のある利用として、静岡英和学院大学新館 5 F 礼拝堂マイクなどの音楽コンサートにおける利用がある。同礼拝堂の音響は念入りに設計され、その設備は石造りの教会などの音響を電子的に創生することも可能となっている [22]。新館竣工式（2008 年 12 月 10 日）後の岩渕まこと氏によるコンサートを皮切りに、音楽コンサートがこれまで一度ならず同礼拝堂で開催されてきた [23] [24]。

青山学院大学では、相模原キャンパス中央のウェスレー・チャペル屋上に設置されたカリヨン（プティ・アンド・フリッツェン社製）により、1日3回美しい賛美歌がキャンパスに奏でられており [15][25]、自動演奏機能付きであれば、ICT 利用事例と思われる [26]。

②礼拝音声録音配信

日本キリスト教団静岡教会、その他の教会で行っている。

③礼拝録画配信

日本キリスト教団呉平安教会では、礼拝中継（3(ア)③）の他、礼拝録画配信を行っている [16][17]。日本イエス・キリスト教団荻窪栄光教会では、3（ア）②で言及したように、礼拝録画配信を行っている [18]。

その他の多くの教会でも、礼拝録画配信を行っている。

表 3 -1 に、Web 上の関連動画数について、Google 検索とフィルタリングで得た調査結果を示す。これによると、「キリスト（基督）教の教会」や「キリスト（基督）教の礼拝」等に関する Web 上の動画(があるページ)は、2016 年 1 月 23 日現在、少なくても約 1 万 3 千件（あるいは約 1 万 3 千ページ）以上、多ければ約 28 万件（あるいは約 28 万ページ）以上あると推定される。しかも、日本語のキーワードによる検索結果であるため、実際は、これ以上の数になると思われる。例えばチョー・ヨンギ牧師の韓国での韓国語によるメッセージに日本語の同時通訳音声と映像が付加されている [27] は、YouTube 頁内に日本語が表示されていて日本語用でもあり、日本語のキーワードによる本検索にヒットするが、同じ礼拝メッセージに英語の同時通訳音声と映像が付加されている [28] は、YouTube 頁内に英語のみが表示された英語用であり、本検索にヒットせず、数に含まれていない。

検索演算子 allinanchor[29][30] を用いれば、件数の評価についてもう少し詳しい情報を得られるが、別の機会としたい。

表 3 -1　Google 検索にヒットした Web ページ数（2 つの調査の結果）ならびに Google 動画検索にヒットした Web ページ数（同様の 2 つの調査の結果）（2016 年 1 月 23 日現在）

調査名	調査 1	調査 2
調査内容	Web ページの全体を調査対象として、キーワード条件と「発信されている情報」に適合する Web ページ(の数)を得る。ただし、任意の Web ページに対して、キーワード条件適合の可否を調べる範囲はページ全体。さらにフィルタの検索ツールで絞り込む。	Web ページの全体を調査対象として、キーワード条件と「発信されている情報」に適合する Web ページ(の数)を得る。ただし、任意の Web ページに対して、キーワード条件適合の可否を調べる範囲はページタイトルのみ(ページ全体の一部)。さらにフィルタの検索ツールで絞り込む。
Google 検索欄に入力するキーワード（検索演算子 [31] 付き）	"キリスト"OR"基督" "礼拝"OR"教会" -"統一教会" -"ものみの塔" -"モルモン" -"統一協会" -"末日聖徒"	allintitle:"キリスト"OR"基督" "礼拝"OR"教会" -"統一教会" -"ものみの塔" -"モルモン" -"統一協会" -"末日聖徒"
上記キーワードによって指定された条件	ページ全体中に、「キリスト」か「基督」を含み、かつ、「礼拝」か「教会」を含み、さらに、「「統一教会」、「ものみの塔」、「モルモン」、「統一協会」、「末日聖徒」」はいずれも含まない	title タグで指定されたページタイトル中に、「キリスト」か「基督」を含み、かつ、「礼拝」か「教会」を含み、さらに、「「統一教会」、「ものみの塔」、「モルモン」、「統一協会」、「末日聖徒」」はいずれも含まない
Google 検索結果	約 1,200,000 件	約 461,000 件
Google 動画検索結果	約 286,000 件、さらに YouTube サイト指定をすると、約 127,000 件（参考：約 286,000 件からのフィルタ絞込による表示件数（ヒット件数ではない）は、再生時間 20 分以上：566 件、さらに高画質：500 件～ 566 件、さらに 1 年以内；503 件）	約 13,800 件、さらに YouTube サイト指定をすると、約 5,900 件（参考：約 13,800 件からのフィルタ絞込による表示件数（ヒット件数ではない）は、再生時間 20 分以上：407 件、さらに高画質：100 件～ 200 件、さらに 1 年以内；100 件以内）

備考	＜ Google 検索の方法 by Chrome ＞ 1. Google 検索は、検索窓にキーワード（正規表現）を直接設定して実施したが、検索オプションの「すべてのキーワードを含む」欄に同じキーワードを設定した検索も、同じ結果・画面になる。 2. また、検索オプション [32] には、検索対象の範囲を決めることができる項目があるので、そこで「ページタイトルのみ」を選択し、さらに「すべてのキーワードを含む」欄に『"キリスト"OR"基督" "礼拝"OR"教会"』、含めないキーワード欄に『"統一教会" "ものみの塔" "モルモン" "統一協会" "末日聖徒"』を入力し、「詳細検索」をクリックして検索すると、調査 2 と同じキーワードを検索窓に直接設定して実施した検索と同じ画面・結果となる。 3. また、上記 2 の「ページタイトルのみ」を「ページ全体」へ、かつ、「調査 2 」を「調査 1 」へ変更した内容も、成立している。 ＜ Google 動画検索 by Chrome ＞ 1. 動画検索は、Google 検索の動画フィルタを用いた（具体的には「Google 検索結果画面において、上部に表示される、メニューの「動画」をクリック」[33][34]）が、Google ビデオ [35] でのキーワード検索と同じ結果・画面になる。動画検索オプション [36] の「すべてのキーワードを含む」欄に同じキーワードを設定した検索も、同じ結果の画面になるが、Chrome（バージョン 47.0.2526.111 m）では、このとき black bar も表示された画面になることを確認した（2016 年 1 月 23 日現在）。 2. 動画検索オプションでは、検索対象の範囲を決めることができる項目はない。 3. 20 分以上等の絞込は、フィルタの検索ツール [33] を使用した。件数概数は、「検索の設定」[33] の「ページあたりの表示件数」を 100 にして、表示件を数えて得た。ただし、「最も的確な検索結果を表示するために、上の 581 件と似たページは除外されています。検索結果をすべて表示するには、ここから再検索してください。」等との表示が出た場合、再検索をしていないケースもあったかもしれない。また、2016 年 1 月 25 日の複数の Google 検索実験では、ヒットページの表示数（ヒット件数ではない）は最大でも 500 ～ 600 件以内であり、Google 検索の仕様 [37] のようである。従って、絞込によるこの調査結果において、少なくとも「５００件以上の場合は、ヒット件数の値としては、あくまでも参考」と思われる。 4. YouTube サイトを指定した場合の結果は、上記キーワードに、検索演算子「site:」を用いた site:https://www.youtube.com/ を付加して得た。

注：動画フィルタは「調査対象を動画のあるページに制限する機能のみ」と仮定している

これらの動画は、多くの場合、急速に普及・浸透したスマートフォンでも閲覧できる。

④葉書、寄せ書き等の郵送

日本キリスト教団静岡教会では、入院中の教会員等へこれらを実施している。また、筆者が出張などの際にその近隣のキリスト教会で礼拝を共に捧げて住所を知らせた場合、ほぼ葉書が送られてきた印象を持つ。なお、郵便の集配にも ICT が用いられているので、これらを ICT 利用項目に含めた。

⑤ LINE、SNS（Facebook その他）、メール

一部は次の Web ページに含まれる。本項での系統的列挙は割愛し、別の機会とする。

⑥教会等の Web ページ（ホームページ等）

現時点で多くの教会ならびに宣教団体がホームページを持っている。また、表 3 -1 によると、キリスト（基督）教の教会やその礼拝等に関する Web 上のページ（動画のページを含む）は、2016 年 1 月 23 日現在、少なくても約 46 万件以上、多ければ約 120 万件以上あると推定される。また、動画ページの場合と同様、検索キーワードが日本語なので、実際はこれ以上の数になると思われる。これらの Web ページは、特殊なページについて例外はあるかもしれないが、急速に普及・浸透したスマートフォンで閲覧できる。

動画のページを含め、宣教利用事例の Web ベージ（本稿でこれまで明示的に言及していないもの）の一部について、ページタイトルを列挙する（オンライン聖書のサイトは、今回は割愛する）；

(1)vaticanit - italiano – YouTube、(2)La

Santa Sede、(3) カトリック中央協議会、(4) 心のともしび｜暗いと不平を言うよりも、すすんであかりをつけましょう、(5) 日本基督教団公式サイト、(6) 日本バプテスト連盟 － 日本バプテスト連盟公式ホームページ、(7) JCM Agape Netowrk 2016-01-24 主日礼拝 Sunday Service and Worship (Week 40) by JCM Agape Network – YouTube、(8)20160110 講演「聖書を読んだ西郷隆盛・その愛と実践」 － YouTube、(9)FEBC Online｜キリスト教放送局日本 FEBC の公式サイト。プロテスタント・カトリック教会からのご出演者によって 20 を超える番組を無料でインターネット放送しているほか、聖書通信講座をはじめ、信仰などのご相談や教会紹介も行っています。、(10) キリスト教放送局日本 FEBC – YouTube、(11)HLAZ － キリスト教放送局日本 FEBC Musashino - Listen Online、(12) テレビ「ライフ•ライン」－ 太平洋放送協会（PBA）公式サイト、(13) ラジオ「世の光」－ 太平洋放送協会（PBA）公式サイト、(14) 聖書の言葉をあなたにハーベスト・タイム・ミニストリーズ » 聖書の言葉をあなたへハーベスト・タイム・ミニストリーズ、(15) ゴスペルアワー@Ｗｅｂ、(16) ゴスペルアワー伝道団 – YouTube、(17) ゴスペルアワー、(18) ルーテルアワー・聖書講座｜ルーテルアワー聖書通信講座　人生の悩みに答えるキリスト教入門、(19)「心に光を」－ごあいさつ、(20) キリスト教ラジオ放送「まことの救い」、(21) キリスト教のラジオ番組 キリストへの時間 毎週日曜日 朝 7 時 30 分から ラジオ関西で放送中、(21) 目黒原町教会、(22) 日本基督教団駿府教会 – YouTube、(23) － NCC 日本キリスト教協議会、(24) クリスチャントゥデイ：キリスト教ニュース、(25)GOSPELjapan、(26)God is love.、(27) How I was saved by God.、(28) ロゴス・ミニストリーとは｜ロゴス・ミニストリーのブログ、(29) 一般財団法人 日本国際ギデオン協会、(30)KGK キリスト者学生会、(31) キリスト教書店　銀座教文館、(32) いのちのことば社 _Official_site、(33) いのちのことば社のオンライン通信販売サイト ゴスペルショップ (Gospel Shop) インターネット店、(34) 公益財団法人 日本 YMCA 同盟、(35) 日本 YWCA 公式ウェブサイト ホーム、(36) Youth With A Mission、(37)www.japanccc.org、(38) 4 つの法則について知っていますか？ [2013.06] – YouTube、(39)Jesus Film Media、(41) 日本の学生 － studentinjapan.com － 人生について、神について安心して質問できる場所、(42)MyLastDay.jp、(43) God's Story On-line 日本語・Christian Answers. Net/japanese、(43) イエス様を知らない方へ、(44) 日本正教会｜ハリストス正教会 The Orthodox Church in Japan、(45) 日本福音同盟 (JEA)、(46)Southern Baptist Convention

４．ICT の宣教利用についての参考情報（一部）覚書

本章では、ICT の宣教利用について参考になると思われる Web ページの一部について、ページタイトル等の情報を覚え書きする。内容についての言及は別の機会とする；

① SIGNIS JAPAN セミナー第 3 回「インターネットが拓く新•福音宣教」報告（「SIGNIS JAPAN セミナー＜教会とインターネット＞」の第 3 回「インターネットが拓く新•福音宣教」（2005 年 2 月 26 日（土））の報告記事）

② ローマ法王死去－布教活動への IT 導入にも足跡を残す - CNET Japan（2005 年 4 月 4 日の記事）

③ YouTube に法王公式チャンネル（2009 年 1 月 25 日（日）掲載）－ Yahoo! ニュース

④ フェイスブック、福音宣教にどう生かす？ SIGNIS JAPAN 主催「教会とインターネットセミナー」: 宣教 : クリスチャントゥデイ・・・（2014 年 12 月 14 日の記事）

⑤ ABOUT ｜聖パウロ修道会サンパウロ公式サイト

⑥ 日本基督教団全国信徒会ホームページ開設のご案内｜日本基督教団全国信徒会

⑦ 全国信徒会ホームページの前史「インターネット伝道会」について｜日本基督教団

全国信徒会
⑧日本基督教団全国信徒会

5．今後の課題等

本稿では、ICT の宣教（礼拝や伝道）への利用に関する「現状認識のための本調査へ向けた予備調査」の端緒として、キリストを信ずる筆者の経験やインターネットなどから得られる情報の一部を整理し、「基礎資料の一部」のたたき台としての提示を試みた。今後の課題は山積しているように見える。今後のことは、これまでのことと同様、主がお決めになる。

「愛に溢れる憐れみ深い主が一切を支配されていること」を喜び、御名をほめたたえます。

6．参考文献

[1] “平成 26 年版情報通信白書（PDF 版）本編【全体】.” [Online]. Available: http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h26/pdf/26honpen.pdf. [Accessed: 18-Jan-2016].

[2] “関係情報：情報通信関連：情報通信白書平成 26 年版 .” [Online]. Available: http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/h26.html. [Accessed: 18-Jan-2016].

[3] “Google のさらに詳しい歴史 – 会社情報 – Google.” [Online]. Available: https://www.google.co.jp/about/company/history/. [Accessed: 25-Jan-2016].

[4] “Google+ のハングアウトオンエアは Android や iPhone のカメラで最大 10 地点から YouTube ライブ配信ができてしかも無料：見て歩く者 by 鷹野凌 .” [Online]. Available: http://www.wildhawkfield.com/2013/07/google-plus-guide-hangout-on-air.html. [Accessed: 17-Jan-2016].

[5] “Google、YouTube のライブ配信機能『YouTube Live』を一般ユーザーに開放 -Engadget Japanese.” [Online]. Available: http://japanese.engadget.com/2013/12/13/google-youtube-youtube-live/. [Accessed: 17- Jan-2016].

[6] “Ustream Asia Inc. | お知らせ .” [Online]. Available: http://www.ustream-asia.tv/news_20151201.html. [Accessed: 17-Jan-2016].

[7] “時代の寵児 Ustream、ひっそり撤退…なぜ視聴者＆配信側に見捨てられた？甘さがアダ | ビジネスジャーナル .” [Online]. Available: http://biz-journal.jp/2015/12/post_12723.html. [Accessed: 17-Jan-2016].

[8] “ニコ生 /USTREAM/YouTube Live 比較資料 .” [Online]. Available: http://farad.bz/fhikaku.html. [Accessed: 18-Jan-2016].

[9] “日本基督教団 静岡教会 公式サイト Shizuoka Church United Church of Christ in Japan (UCCJ).” [Online]. Available: http://www.shizuoka-church.jp/. [Accessed: 15-Jan-2016].

[10] “インマヌエルシステム「トップページ」.” [Online]. Available: http://www.shop- kansai.com/immanuel/index.html. [Accessed: 14-Jan-2016].

[11] “インマヌエルシステム「設置・施工実績」.” [Online]. Available: http://www.shop-kansai.com/immanuel/audio.html. [Accessed: 14-Jan-2016].

[12] “日本福音ルーテル教会 .” [Online]. Available: http://www.jelc.or.jp/. [Accessed: 15-Jan-2016].

[13] “laos.pdf.” [Online]. Available: http://www.jelc.or.jp/archive/laos.pdf. [Accessed: 14- Jan-2016].

[14] “年間行事 | 静岡英和学院大学 宗教センター .” [Online]. Available: http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp/cac/schedule/. [Accessed: 15-Jan-2016].

[15] “青山学院 | 青山学院の礼拝堂とオルガン - 青山学院宗教センター - 青山学院と

キリスト教 - 青山学院の教育.” [Online]. Available: https://www.aoyamagakuin.jp/education/consistency/rcenter/chapel.html. [Accessed: 25-Jan-2016].

[16] “日本基督教団呉平安教会.” [Online]. Available: http://kurehei.jp/. [Accessed: 15-Jan-2016].

[17] “呉平安教会.” [Online]. Available: http://www.ustream.tv/recorded/80849953. [Accessed: 15-Jan-2016].

[18] “USTREAM: eiko-church: 日本イエス・キリスト教団　荻窪栄光教会の礼拝中継. キリスト教.” [Online]. Available: http://www.ustream.tv/channel/eiko-church. [Accessed: 15-Jan-2016].

[19] “KECF ~ 慶應福音キリスト者学生会 ~: KECF と　は.” [Online]. Available: http://keiofellowship.blogspot.jp/p/kecf.html. [Accessed: 14-Jan-2016].

[20] “大連から日本を考える：玉光街礼拝堂.” [Online]. Available: http://blog.livedoor.jp/yomiyomi443/tag/%E7%8E%89%E5%85%89%E8%A1%97%E7%A4%BC%E6%8B%9D%E5%A0%82. [Accessed: 15-Jan-2016].

[21] “国内宣教.” [Online]. Available: http://gracech.sun.bindcloud.jp/jhc/mission//kokunai/indexhtml.html. [Accessed: 15- Jan-2016].

[22] 高橋顕吾, 岸永伸二, and 七五三範明, “静岡英和学院大学大講義室兼講堂の音響設計―音場創生システムによる礼拝用途への対応―,” 日本音響学会研究発表会講演論文集（ＣＤ－ＲＯＭ）, vol. 2009, Mar. 2009.

[23] “ほぼ日刊アトリエＭアーキテクツのｅ静岡建築日記 :2013 静岡英和学院大学・錦織健コンサート。.” [Online]. Available: http://ateliermarchitects.eshizuoka.jp/e1000196.html. [Accessed: 15-Jan-2016].

[24] “音楽のおくりもの.” [Online]. Available: https://www.youtube.com/watch?v=g9AOJGadZLY. [Accessed: 15-Jan-2016].

[25] “礼拝堂・チャペル案内（ガウチャー記念礼拝堂・ウェスレーチャペル）- キリスト教教育 - 大学案内.” [Online]. Available: http://www.aoyama.ac.jp/outline/christ/chapel.html#anchor_02. [Accessed: 25-Jan-2016].

[26] “パイプオルガンのことならMC Trading.” [Online]. Available: http://www.mctrading.co.jp/contents/carillon/fritsen.htm. [Accessed: 25-Jan-2016].

[27] “2016-01-03 新年はこのように生きようヨシュア記（여호수아）1：1-9 趙鏞基牧師主日 4 部礼拝汝矣島純福音教会 東京日通訳 FgtvJpLive1 20160103123746112.” [Online]. Available: https://www.youtube.com/watch?v=MfxzDSwpwc0. [Accessed: 18-Jan-2016].

[28] “2016-01-03 Josh. 1:1~9 Let’s Live the New Year like This Rev.Young hoon Lee Yoido Fullgospel.” [Online]. Available: https://www.youtube.com/watch?v=s9z2jBQ-9jY. [Accessed: 18-Jan-2016].

[29] “Web 屋がちょくちょく使う Google 検索演算子まとめ | あとぷラボ.” [Online]. Available: http://www.atopla.com/atoplabo/others/google-search-operator/. [Accessed:24-Jan-2016].

[30] “SEO でよく聞く内部リンクって何？| ヨッセンス.” [Online]. Available: http://yossense.com/inner-link/. [Accessed: 24-Jan-2016].

[31] “検索演算子 - ウェブ検索 ヘルプ.” [Online]. Available: https://support.google.com/websearch/answer/2466433?hl=ja&ref_topic=3081620. [Accessed: 23-Jan-2016].

[32] “Google 検索オプション.” [Online]. Available: https://www.google.co.jp/advanced_search. [Accessed: 23-Jan-

2016].
[33] “Google 検索結果ページ - ウェブ検索ヘルプ.” [Online]. Available: https://support.google.com/websearch/answer/35891?hl=ja&ref_topic=3081620. [Accessed: 23-Jan-2016].
[34] “検索結果のフィルタリング - ウェブ検索ヘルプ.” [Online]. Available: https://support.google.com/websearch/answer/142143?hl=ja&ref_topic=3081620. [Accessed: 23-Jan-2016].
[35] “Google ビデオ.” [Online]. Available: https://www.google.co.jp/videohp?hl=ja.[Accessed: 25-Jan-2016].
[36] “Google 動画検索オプション.” [Online]. Available: http://www.google.co.jp/advanced_video_search?hl=ja. [Accessed: 23-Jan-2016].
[37] “Google のヒット件数について（続き）- アスペ日記.” [Online]. Available: http://d.hatena.ne.jp/takeda25/20131107/1383837561. [Accessed: 25-Jan-2016].

（以上、2016 年 1 月 26 日提出）

新任保育者はキリスト教主義園の保育をどう捉えているのか
―1年間のインタヴュー分析より―

鈴　木　幸　子

Ⅰ　問題と目的

新任保育者の多くは就職当初、未知な園文化の中で、とまどいながら保育を行う。それは、キリスト教主義園の保育においても同様である中で、新任保育者はキリスト教に触れた経験の有無に関わらず、キリスト教精神に基づいた保育実践をする。

キリスト教主義園の保育者は、クリスチャンである保育者の割合が1981年の調査では47.8%であったのに対し、2004年の調査では27.2%である。この20年間にクリスチャンである保育者は減少しており[i]ノンクリスチャン保育者の働きは大きく、キリスト教主義の保育はノンクリスチャン保育者とクリスチャン保育者の協働で成り立っているといえる。

しかし、園側は、キリスト教の信仰や知識に対する理解なくしては、キリスト教保育は成り立たないという考え方[ii]が根本にあり、イエス・キリストが示された神の愛に気づき、その愛の中で生かされていると感じることに乏しさがある[iii]と指摘されている。このような現状の中で、礼拝や祈り、讃美歌などのキリスト教の行為が表面的になるというキリスト教主義の保育の形骸化が危惧され[iv]ている。

その一方で、教会には行かないがキリスト教に関心をもつキリスト教シンパが存在し[v]、キリスト教シンパに対しては教会からのアプローチや園内におけるキリスト教的空間づくりが求められること[vi]が課題として挙がっている。また、事例的検討であるが、クリスチャン主任のインタヴューから、キリスト教主義の保育方針の具現化に重要なのは、クリスチャンかどうかではなく保育者の保育観であり、保育観の生成は、新任保育者の自己肯定感とそれに対し上司がキリスト教的思考から働きかけることや、キリスト教志向の協同的な園内研修によることが示唆されている[vii]。ノンクリスチャン保育者が、キリスト教に関心を持って保育実践していることも事実であるといえよう。

このように主に園側の保育者に対する問題意識は多く報告されているが、保育者自身がキリスト教主義の保育をどのように捉えているのかについて明らかにした研究は少ない。新任のノンクリスチャン保育者とクリスチャン保育者の就職前の考え方についての報告[viii]やキリスト教行事の捉え方を検討[ix]したものがあるが、いずれも保育者の一時点におけるものである。園内の役割と宗教意識を検討した江村ら[x]は、ノンクリスチャン主任保育者の宗教意識（キリスト教をどのように感じ、考えているのか）が、ノンクリスチャン保育士（担任等）の宗教意識より高い傾向にあることを示した。保育者はキリスト教保育の実践によって神を理解しようとし、同僚から刺激を受けることで宗教意識を高めているのではないかと考察し、ノンクリスチャン保育士が主任役割になっていくプロセスで宗教意識に変化が生じる可能性を示唆している。しかし、その詳細なプロセスは明らかになっていない。プロセスを検討することは、保育専門職としての成長を支援するための示唆となる意味で重要である。

よって、保育者がキリスト教主義園の保育をどのように捉え、それがどのように実践と関連し、どのように変容していくのかというプロセスを縦断的に検討することが、キリス

ト教主義園の現状を明らかにするために必要であろう。

保育者の保育行為は信念と行為が関連している[xi]ことが知られている。上田[xii]は、日常経験が保育者の価値観に影響を与えるのは、経験全てが新鮮な新任保育者に多くみられると想定し、新任保育者の日々の保育行為が価値観に影響を与えていくプロセスを明らかにしている。日々の保育行為から価値変容点が生成され、ゆらぎつつ、それがまた日々の保育行為の選択に影響を与える。価値変容点のゆらぎの繰り返しを通して価値観が生成されているという。ここから、日常の保育実践がキリスト教主義の保育の捉え方に影響すると考える。

そこで本研究では、新任保育者を対象とし、キリスト教主義園の保育実践を通して、キリスト教主義の保育をどのように捉えているのかをその要因と変容を含めて明らかにすることを目的とする。

その際、研究協力者を新任のクリスチャン保育士とノンクリスチャン保育士とする。両者の類似点や相違点の検討は、今日のキリスト教主義園の保育者研修内容への示唆となると考えるからである。

Ⅱ　方法

1，研究協力者：静岡県内キリスト教主義保育所勤務のA保育者とキリスト教主義幼稚園勤務のB保育者。A保育者はクリスチャンで、B保育者はノンクリスチャンである。

2，調査時期、方法：2014年、新学期開始前の4月、クリスマス後の1月、年度修了後の3月の計3回インタヴューを行った。インタヴュー時期は、新任者特有の疲れと、キリスト教主義の保育を考える機会が起こりやすい時期を考慮した。インタヴューは半構造面接で行った。主な質問項目は、キリスト教との出会い、キリスト教主義園の保育の実践内容と感じたこと考えたことなどである。新学期開始前の4月の時点で捉え方に影響するのは、それまでのキリスト教経験が大きいと考えるため、キリスト教との出会いを質問項目に入れた。インタヴュー時間は1回につきおよそ30分。話の内容は、それぞれの保育者の了解を得てICレコーダーで記録した。尚、分析は話の内容から、キリスト教の保育への考えや想い、それらに関連する背景や出来事を対象とする。

尚、研究協力者には事前に調査目的、概要を口頭及び文書で説明し、記録は研究のみに使用することについて許可を得た。

3，データの分析

インタヴューデータを文字化した後、大谷[xiii]によるSCAT（Steps for Coding and Theorization）を用いて分析した。分析は、テクストから始まる4ステップのコーディングを行い、構成概念を基にストーリー・ラインを作成した。それぞれの保育者のストーリー・ラインを時系列に並べ、それぞれの保育者のキリスト教主義の捉え方と要因、捉え方の変容を検討した。その上で、両保育者の類似点と相違点をまとめた。

Ⅲ　結果と考察

1，SCAT分析によって得られたストーリーラインを保育者ごとに時系列に示した。下線は構成概念である。

〈A保育者のストーリーライン〉

①　新学期開始前　4月

キリスト教との出会いは、母がクリスチャンであったため幼児洗礼を受けたことと、家庭での祈りの豊かな経験にある。教会生活の少なさはあったが、学生時代、アイデンティティの模索をするようになると教会への主体的な関わりが始まった。神と自分との安心関係想起と、キリスト教理解をすると同時に信仰への疑問・好奇心も生まれた。教会では、礼拝後のひと時に子どもたちとの交わりの喜びから、習慣付いた礼拝参加になった。キリスト教主義園の保育者を志望したのは、教会附属ではないが、教会隣接保育園への教会関係者評価の高さである。教会隣接園への就職は、優れた印象の他園よりも、教会隣接園での実習で子どもの感じる神に触れ感動したこと

や、保育観の一致を優先したこと、関係者推薦があったためである。キリスト教主義の保育園では、神様の存在とその伝達が子どもへの魅力的な保育行為だと思っている。毎日、保育者のみの簡易的な礼拝の中で、保育者の祈りとして祈りの時間が確保されており、神に触れる機会があることと謙虚になれることに感動を覚えている。また、始業前に、教会で独り静かな神との時間を持てることや園舎内の祈りを引き出す環境の中で祈ることで、落ち着いた一日のスタートを切ることができ、保育行為への良い影響があると考えている。また、保育園は少数のクリスチャンとキリスト教シンパの協働で温かい雰囲気が作られ、新任者の主体的な保育実践の可能性があると感じている。さらに、園内宗教研修がキリスト教的空間作りの要因であり、ノンクリスチャンの違和感解消に影響しキリスト教シンパ生成の要因ではないかと考えている。

② クリスマス後 1月

2歳児担任として、毎日、保育者と子どものクラス全員で定型と非定型の祈りをしている。祈りでの子どもの様子には、大人と同内容の祈りで難しさはあるが、ルーティンのため部分的表現をしたり、さまざまな態度をとったりしている。礼拝は、幼児クラス対象の礼拝であり、2歳児は礼拝参加なしで、クラス内での祈り中心である。

クリスマス期間は、分担作業の困難さを感じながらも、担当の2歳の子どもたちはアドベントの制作の喜びを感じたり、生誕場面装飾の見学をしたり、クリスマスの話を聞くなどをした。その中で保育者として、2歳児の子どもの受け止め方の発見や装飾のイエス誕生場面の人物説明をするなどから、共感的喜びを体験した。クリスマスは、学年別活動のため、2歳児にふさわしいクリスマス会で親しみやすい教材の生誕物語DVD鑑賞をした。2歳児のクリスマス体験から視覚教材の有効性に気づいた。就職当初の4月は、子どもに神様のことを話して伝えたいと考えていたが、現在は子どもへのかかわり方自体に、伝達可能性があると考えている。早番遅番での幼児との交わりでは、担当外学年の反応への興味があり、学生時代の経験に基づいた教材でキリスト教志向絵本の試行をした。幼児の理解可能教材であったこともあり、全体的な傾聴がみられた。

これまでのキリスト教主義の保育園生活では、朝教会で独りでの祈りによる保育中心思考への転換から日常的な祈りの重要性を感じたり、キリスト教主義要因と思われる良好な同僚関係があったり、宗教研修で同僚のキリスト教思考への喜びが印象的だった。しかし、クリスチャン園長はこれまで、ノンクリスチャン保育士らへのわずかなキリスト教伝達実感はあるものの、行為のズレからクリスチャンの孤独感や伝達者としてのもどかしさがあったようで、クリスチャンの新任保育士に頼もしさを抱いている。キリスト教シンパと思われるノンクリスチャン保育士らは、宗教研修の理解困難さから研修の回避欲求をもっていることも確かである。

③ 年度修了後 3月

1年間を振り返ると、2歳児担任として、最後まで困難感があり修了した今は緊張状態からの解放を味わっているが、2歳児の身辺自立と主張する様子から子どもの成長を感じている。子どもへの接し方の悩みが尽きず、時に同僚からの指導で、複数担任内の子どもの受容役割でよいとの助言を受けることもあった。そのような状況で、子どもへ神様のことを伝える余裕なしで、御心の表現としての保育実践が叶わない。保育中に、キリスト教的意識を引き出す情態は困難で、意識の再現と消失の繰り返しであるが、神といつも一緒観はもっている。神父から、保育実践と信仰との調和関係観の助言をいただいたことを思い出す。2歳児クラスのクリスマスには、アドベントカレンダー的制作とクリスマス再現装飾の環境で、子ども視点の発見をし、子どもの感情への働きかけには、視覚教材の有効性を感じる。同僚とは、円滑なコミュニケーションが取れる良好な同僚関係で、保育集中できている。ノンクリスチャン保育者との協働の中で、クリスチャン特有の表出や同僚ク

リスチャンの心強さも耳にするが、保育中の区別観なしで保育者それぞれの宗教観を尊重し、是非なく、行為理解している。

〈B 保育者のストーリーライン〉

①　新年度開始前　4 月

キリスト教との出会いは、キリスト教主義中学校選択に始まる。学校選択は、同学校 OG で教育方針に賛同したノンクリスチャンの親の推薦による。中学校生活では形式的な礼拝参加であったが、同学院の高校生活では感動的クリスマス礼拝体験や、キリスト教思考との出合から憧憬の芽生えがあった。これには、家庭教育の影響もある。礼拝の雰囲気の良さや自身が落ち着く等を含めたキリスト教体験の重なりによりキリスト教特有の思考・環境に魅力を感じ、同学院のキリスト教主義大学へ進学する。考えの異なる他者との出会いもある中で、キリスト教の思考を理想にもち、キリスト教主義幼稚園での実習の影響から、愛情が生涯基盤になると考えるようになる。また、卒業論文では、自ずとキリスト教保育をテーマし、その考え方を明瞭にした。キリスト教主義幼稚園の保育は、無宗教園の生き生きとした雰囲気のみならず、子どもにとって愛情に満ちた体験可能な保育環境や体験の保障を重視していると考えている。キリスト教主義園に保育者として就職後は、子どもの個性尊重をする愛情に満ちた保育実践を理想としている。自分と神様の関係は意識なく、神様は自分から遠い場所にいて、自分を見守り、訪れてくれる人と考えている。

②　クリスマス後　1 月

4 歳児少人数クラス担任として日々努力を重ねている。日常では、讃美歌・礼拝・祈り等キリスト教行為の実践もしている。日々の保育の中で、定型・非定型の祈りがあり、落ち着いた状況を作り温かい感覚で感謝と願いを込めているという。礼拝はお御堂で、説教、讃美、祈りが行われる。全学年が傾聴可能な神様の話が中心だが、クリスマス時期には発達的考慮をした礼拝が計画され、5 歳児のみの話もあった。クリスマスは、アドベントの 1 か月前から本格的に職員が一致団結して準備を進め、新任者は二つの役割を担った。担任である 4 歳児学年では、学年別のねらいのため、クリスマス物語ではない劇の準備が進められたが、毎日、イエス様を想うアドベント期間活動を行い、クリスマス直前に作品を祭壇に捧げた。その際、子どもたちが十字架に対しある程度の理解を示す発言をしていることから、神様の話が子どもたちの心に届いていると考えている。さらに、発達過程に配慮した保育内容により学年別クリスマス会が行われたが、アドベント期間に 5 歳児の生誕劇の練習の見学をし、4 歳児クラスの子どもたちは、憧れをもち、劇遊びに取り入れるなどしていた。このような様子から、4 歳児クラスの子どもたちがクリスマスを大事な日と理解している、と考えている。また、日常において、保育前と後に保育者たちの祈りが当番制で行われる。新任保育者は祈りを感謝の表現と考えており、当番の時には、同僚援助への感謝を祈った。キリスト教保育全般については、個人の尊重と受容、高い包容力を重視した愛情深いものだと考えている。

③　年度修了後　3 月

1 年間を振り返ると、働き初めの保育は、同僚模倣の実践で、それまで描いていた理想保育像達成困難と感じ、自信喪失期があった。しかし、子どもと新任保育者は喜びの関係にあり、それはエネルギー源となった。また、厳しい同僚関係があるが、上司からの見守られ観に気づくと居心地の良さを感じ、いい職場だと思っている。就職前から感じていた温かい雰囲気は、キリスト教主義園特有の良さだと感じている。具体的には、個性尊重の歌詞の愛情のこもった曲を歌った感動的な卒園式を経験したり、辛い時には、神様からの試練だと思うことが乗り越える力となったことである。新任保育者として、様々な研修を受講するなかで、礼拝形式の研修では教派の違いの新鮮さを感じたり、クリスマス会の出し物の準備では、クリスマスとの関連不足実感をした。日曜礼拝未経験だが、学生時代より

も主体的キリスト教思考を実感しており、来年度のキリスト教保育に挑戦的意欲を持っている。

2，ストーリーラインを基に、それぞれの保育者のキリスト教主義の保育に対する捉え方とその要因を検討した。結果、捉え方は保育全体に対するものを中心に、いくつか挙げられた。以下に番号を付け「　」で示し、考察する。（考察中の「　」カッコ内はテクストから引用）

〈A 保育者のキリスト教主義の保育の捉え方〉

①「キリスト教の保育全体について、新学期開始前は、神様の存在と子どもへの伝達が魅力的な保育と捉えていた。保育が始まると伝達方法は保育者の子どもへのかかわり方自体にあると考えるが、次第に子どもへのかかわり方が御心に叶わないという思いから、保育の中で神様の伝達は困難であると捉えるように変容した」

A 保育者は、学生時代にキリスト教主義園での保育実習で、「神様のことを話しする時に、イエスさま、こんなこと言ったらトゲが刺さって痛いよとか、神様いつも見てるんだよとか、みんなのこと愛してるんだよ」といった場面に感動を受けた。また 4 歳の子どもが神様の話をしてくれたことがとても印象的だったという。加えて、継続して日曜礼拝に参加していたことから、キリスト教主義の保育について、神様の存在とその伝達が魅力的な保育という捉え方に至ったと考えられる。担当の 2 歳児の保育が進むにつれ、神様の伝達は、話して聞かせるよりも保育者の子どもへのかかわり方から伝達されるものだと考えるようになる。この考えは、2 歳児と幼児クラス年齢の子どもとの発達の差に起因している。しかし、次第に 2 歳児の特徴的な自己主張の強さへの対応の難しさが表れてくると、A 保育者は「子どもとけんかしちゃったり」や「きつく叱ったりした」ことがあり、「もっと優しくしたいのかな」と、神様の御心に叶う保育ができていないと思うようになった。保育者としての理想のかかわり方と現実のかかわり方に差が生まれ、そこに困難感がある。この困難感は学年末まで続いた。子どもへのかかわり方から神様のことを伝達しようと思っていた A 保育者は、この困難感によって、神様の伝達は困難であると捉えるように変容した。

②「子どものキリスト教の行為や行事に対する反応は、未知で興味深いものと捉えている」

A 保育者は、実習生として子どもとかかわっていた時から、4 歳児が神様のことを話してくれたことに感動していた。就職後には、クリスマスの馬小屋場面像の前で、子どもが赤ちゃんイエス様を発見した姿から 2 歳児の視点を発見したり、担当外の 4,5 歳児に対する絵本の読み聞かせでは、イエス様の絵本を選択し、どのような反応をするのか観察していた。新任者のため、子どもが神様やイエス様のことをどのように感じるのかが未知であるため、興味が湧くのであろう。子どもの反応に感動したり、新鮮に感じたりしていた。この体験が、今後の保育内容やねらい作りに繋がっていくのだろう。

③「朝の独りでの祈りと保育者間の祈りが、保育にいい影響を与えると捉えていたが、子どもへのかかわりの困難から、祈った内容が保育中に実現できないと変容した」

A 保育者にとって祈りは重要なものだと思われる。幼少期の寝かしつけの時間、母が絵本を読んだ後に祈りがあり、その時間がとても心地の良いものであったと強く記憶している。就職当初、新学期開始前の 4 月も、隣接教会にて独りでの祈り、保育前と保育後の同僚との祈り、保育中の子どもとの祈りなどの時間をとてもいいものだと思っていた。朝の祈りの内容は、「子どもを通して神様を感じられますように」や「子どもと御心のままに過ごせますように」など、一日の保育の目標となり、また落ち着いて保育に臨めると話していた。祈りが A 保育者のキリスト教の保育実践のための、大きな支えの一つであったと考えられる。しかし、次第に、祈りの内容

のように保育できていないと気づくようになる。子どもへのかかわり方に理想とのズレが生まれたためである。祈りの内容を意識するようにしたいのだが、子どもを前にすると忘れてしまうという。自分の保育方法についての困難感が、A保育者に、祈りは祈りの環境によってその内容が意識されるが、普段の保育中は意識できないと思わせるようになった。祈りと現実の保育との狭間で困惑している。

④「就職した園は、クリスチャンとノンクリスチャンの協働で、温かい雰囲気の保育が作られ、同僚関係も良好であると捉えていた」

この捉え方は、A保育者が実習生の時から年度修了後まで不変であった。実習時には「人間関係とか温かい感じ」を受けており、加えて就職当初には「イエス様とかお祈りとか信仰みたいのは、他の先生（ノンクリスチャン保育者）はあんまり分かんないけど、よくそれでも丁寧な言葉がけとか、すごく自分がいいなって思うのがあって」、「信仰はしてないけど先生たちからすごい温かいものを感じるっていうか。（入って）良かったなって思います。」など、ノンクリスチャンとクリスチャンの協働により、キリスト教主義園のよい保育実践が行われていると捉えていた。1年の間には、A保育者の子どもへのかかわり方に関する困難時期が長くあったが、その際、同僚から適切かつ肯定的な助言をもらい続けたことが同僚への信頼になり、温かい雰囲気の保育、同僚関係の良好といった捉え方の不変に影響していると思われる。

⑤「宗教研修はノンクリスチャン保育者に良い影響があると捉えていた。次第に、祈りの一部を茶化したり、研修への抵抗を示す保育者の存在を知るようになるが、宗教研修の捉え方に変容はない」

A保育者の就職園における宗教研修は、月に1,2回、隣接教会で全保育者を対象に行われている。新学期開始前の4月、A保育者は「（ノンクリスチャンの）先生たちもすごく（キリスト教に）興味があるみたいで、お祈りとかどうするのとか、毎週（教会に）行ってるのとか、聖書とか読むのとか、そういう風に言ってくれるんですよ。」と、ノンクリスチャン保育者がキリスト教に興味を持っていることを嬉しそうに語った。このようなノンクリスチャン保育者らは、教会に行かなくてもキリスト教に興味のあるキリスト教シンパと考えられる。また、宗教研修を大事だと思っており、ノンクリスチャン保育者と過去の自分を重ねて「私の大学1年生の時の（キリスト教へ疑問を持っていた）ことが分かってるので、（ノンクリスチャン保育者が）これって何なんだろとか思うだろうなって思いますね、違和感とか。」と、宗教への疑問を解消するために宗教研修が大事なことのひとつだという。次第に、ノンクリスチャン保育者が祈りの一部を茶化した発言や宗教研修への抵抗があることを知るようになるが、宗教研修の捉え方に影響しない。その要因は、A保育者が、「その先生たちも、他の宗教入ってたら（キリスト教を）信じないじゃないですか。そしたらやっぱりそういう風になるんだろうなって思うんですよね」とノンクリスチャン保育者らの宗教観を理解しようとしていること、キリスト教に少しでも興味を示す保育者らがいること。また、日常の保育実践でのノンクリスチャン保育者らから感じる温かさや良い雰囲気、良好な関係が要因ではないかと思われる。このような考え方により、A保育者はクリスチャンかノンクリスチャンかの是非なく協働できるのかも知れない。

〈B保育者のキリスト教主義の保育の捉え方〉

①「キリスト教の保育全体について、子どもの個性尊重をする、愛情に満ちた温かい雰囲気の保育と捉えていた」

B保育者のキリスト教主義の保育の捉え方の要因の一つは、これまでのキリスト教経験にあると考えられる。B保育者は、キリスト教主義の中学、高校、大学を卒業している。キリスト教学校を推薦したノンクリスチャンの親は、キリスト教主義の学校は「ひとりひとりを大切にして、オーダーメイドみたいな

感じて教育をしてくれる」と個性尊重を重視し、B保育者はその考えに賛同している。B保育者はキリスト教主義学校を進むにつれ、クリスマスにキャンドルサービスや聖歌隊になってガウンを着て歌った時の雰囲気の良さに強い印象がある。これが憧憬の芽生えとなり、聖句の内容が自分の在り方の憧れになることもあった。大学では、キリスト教主義園で保育実習を行い「無条件に愛される喜びを知るとか。そういうことがベースにあると、自分を大事にできるし、それによって人を大事にできるし。なんかそういう人になったら、すごくいいなと思ったんですよ。周りの人にも愛されて、きっと幸せに生きていってくれる」と愛情が人生の基盤になると考えるようになっていた。これまでの、家庭での個性尊重の考え方や学校でのキリスト教の雰囲気を良いものとして価値付けてきたことが、実習園において大切にされていると感じたことに加え、愛情を基盤とした保育への感動的な体験が、「子どもの個性尊重をする愛情に満ちた温かい雰囲気の保育」という捉え方に影響したと考えられる。新任保育者としてクリスマスを終えた時には、「一人ひとりに丁寧に接している」、「どんな子でも受け入れて大きな愛で包む」と話し、温かい雰囲気、個性尊重、愛情を変わらず重視している。不変の要因は、「愛情たっぷりの温かいもの」を意識できる保育内容にあるようだ。キリスト教主義以外の園でも愛情や温かさはあるが、キリスト教主義の保育では「お祈りとか讃美歌とか。なんかそれを子どもがそういうのを意識できる場面が沢山あって、用意されてる」と感じている。子どもたちがキリスト教の行為を通じて、愛情や温かさを感じる機会が他園よりも多いと思い続けていることが、不変の要因だと思われる。

②「保育での神様の話の内容は、子どもたちの心に届くと考えている」

4歳児クラスの子どもが十字架に対し「あれは、神様が見守ってくれてるよね」といった発言や、アドベント期間に子どもと共にイエス様を想いながら制作活動したときの心情、金子みすゞの個性尊重した歌詞の歌を選び、「みんな違ってもいいんだよっていうの（歌詞）が、意味が分かって子どもたちが歌ってて、なんかただ歌ってるんじゃなくて気持ちが入って」歌う姿に感動したことなどがあった。このような子どもたちの神様への理解や、礼拝の話の内容理解を示す発言や態度から、神様の話の内容は子どもたちの心に届くと考えている。だからこそ、B保育者自身も、お祈りを「落ち着いた気持ちで子どもたちもできるように、その時間は大事にしようと思っていて、どうしてもざわざわしちゃったりとか、してくる日もあるんですけど、落ち着くように声を掛けて、大事な時間だからね」と、神様を感じならが「なんとなく温かい気持ちで」しているのだろう。

③「大変さや辛さを感じた時には、神様からの試練だと捉え乗り越えた」

働き初めの保育は、毎日の保育が精一杯で、担当クラスの子どもの人数は「少ないんですけど、それでもやっぱり大変で目が行き届かなかった」等、理想の保育像と現実に差があり、同僚模倣の保育で自信喪失期があった。また、同僚関係では「社会の厳しさを味わって」いる時期があった。その時期、B保育者を支えたのは、子どもとの関係や園長の心遣いであったと同時に、「これは神様が必要だと思って自分に与えてることなんだ」と、乗り越える力にしたことだと思われる。

④「祈りは感謝の表現だと捉えている」

B保育者は、職員間の祈りの際、同僚への感謝を込めて祈った。就職当初からB保育者は同僚関係で厳しいと感じる部分があった。一時、その厳しさと保育の困難時期とが重なり、進退を考えるほどであった。しかし、園長のフォローがあり、上司からの見守られ感に気づくと、居心地良さを感じるようになり、良い職場だと思うようになった。体調不良で休んだ時には、「先生たちがすごく支えてくださって、連絡くださったりとか、私の分の仕事を手伝ってくれたりとかあった」と、同僚からの援助を温かく受け止めた。この援

助への感謝を祈りに込めて表現した。また、子どもとの祈りでは、「今日みんなが元気に遊べたことに感謝します」と表現している。

3，それぞれの保育者のキリスト教保育の捉え方から類似点と相違点を検討する。A保育者はクリスチャン、B保育者はノンクリスチャンである。

類似点は、困難感の経験、よい雰囲気の実感、祈りの重要性である。

まず、困難感の経験についてである。両保育者は、理想とする保育が現実にはできないという自覚から、困難感を経験している。加えてB保育者は同僚関係の厳しさにも困難感があった。これらの困難感は、初期キャリアの保育者が出会う、リアリティ・ショック（一方における自分の期待・夢と、組織での仕事や組織に所属するという現実の間のギャップに衝撃を受けること）[xiv]であり、誰もが経験することだろう。このリアリティ・ショックは、成長の障壁だけでなく、成長の転機になる可能性もある。A保育者は、この困難感を神との関係において捉え、神様の御心に叶わない、子どもに神様のことが伝わりにくいかかわり方をしている、もっと子どもに優しくしたいのかなと省察し、祈り、実践に移そうと努力していた。B保育者は、困難を神様からの試練だと思って乗り越えたと振り返る。両保育者から、神に頼ることは、成長の転機を支える一つとなる可能性が窺える。

次に、よい雰囲気があると捉えていることである。A保育者は、園全体がクリスチャンとノンクリスチャンの協働により、優しく温かい雰囲気の保育ができていると捉えている。具体的には、子どもへの声掛けの仕方といった子どもへのかかわり方にある。また、祈りと宗教研修などの影響で、クリスチャンではないけれどキリスト教に興味がある人達がいることも要因ではないかと推測している。B保育者は、これまでの経験により、キリスト教の温かい愛情のある雰囲気に価値を置いていた。その具体的な表現が保育では、保育者が「一人一人に丁寧に接する」こと、「どんな子どもでも大きな愛で包むこと」だと感じている。両保育者から、保育者の子どもへのかかわり方がキリスト教主義のよい雰囲気を創り出す可能性が窺える。

祈りの重要性について、A保育者は、特に始業前の独りでの祈り、同僚との祈りが保育実践に落ち着きと、神に起因した一日の保育の目標をつくると言う。また、困難な時には祈りの内容を意識しようと努めている。A保育者の保育実践にとって、祈りは大きな支えになっている。B保育者は、祈りは感謝の表現と同時に、子どもの心に届くと考えているため、子どもとの祈りでは落ち着いた状況をつくろうと努めている。両保育者から、祈りが保育や同僚関係を支えるための一つとして重要であることが窺える。

次に、相違点を四点挙げる。

まず、A保育者は、新任期を通じてキリスト教主義の保育の捉え方が変容していたのに対し、B保育者に変容は見受けられなかったことである。吉岡[xv]は、保育者の成長には、子どもと同僚とのかかわりを通して、保育に対する信念を補強したり再構成する過程があるという。捉え方が変容したのは、保育実践経験から保育に対する捉え方の再構成が行われたのではないだろうか。捉え方に変容が見られなかったのは、保育実践経験から保育に対する捉え方が補強されたのではないだろうか。どちらも、保育者の成長プロセスにある現象であり、クリスチャンかノンクリスチャンかの違いによるとは言えない。

二つ目は、子どもたちへ神様のことを伝える方法である。A保育者は、新学期開始前、子どもに神様の話が伝えられると楽しみにしていたが、2歳児の担任として子どもと接する中で、その伝え方は、話でなく保育者の保育行為そのものであると考えるようになった。B保育者も子どもに神様の話は子どもの心に届くと考えているが、その伝え方は話すことである。A保育者が2歳児の担任であるのに対し、B保育者は4歳児の担任である。発達の違いが伝達方法の違いとして現れたと

考えられる。

三つ目は、A保育者は、同僚の宗教に関して言及しているのに対しB保育者はしていない。A保育者は、クリスチャンかノンクリスチャンかに言及してその協働を視野に入れていた。A保育者は、就職園にクリスチャンがごく少数であることを承知でで勤務に就いた。同僚もA保育者がクリスチャンだと知っていたことから、A保育者に対し同僚たちが心強く思ったり、キリスト教に関わる質問をしたりするなど、就職園の環境がクリスチャンであることを意識させた可能性がある。B保育者はノンクリスチャンであり、就職園で少数派ではないため、意識する必要はないだろう。A保育者の同僚の宗教に関する発言は、園のクリスチャンの割合という人的環境の違いによると考えられる。よってこの点はクリスチャンかノンクリスチャンかの違いによると言えるだろう。

最後に、園内の宗教研修について、A保育者は、良い雰囲気を創り出す保育者に影響を与えるといい、B保育者はこれまでの教派との違いを感じたという。A保育者は幼少期から就職園と同じカトリックの教会で過ごしてきた。B保育者は、就職園はカトリックであるが、学校ではプロテスタントの礼拝を経験してきた。このため、B保育者の教派の違いが印象深いとの発言になったのだろう。また、A保育者は、学生時代に教会へ通いながら、アイデンティティの確立のためにもキリスト教への疑問や抵抗感について模索した時期があった。この経験がキリスト教理解のために、保育実践以外の宗教研修がキリスト教精神を生成する重要なものと考えていると思われる。それに対し、B保育者は、キリスト教思考に価値を置いているものの、自分とキリスト教との関係を模索した経験は見当たらない。A保育者の経験がクリスチャン特有ならば、クリスチャンかノンクリスチャンかの違いが発言の違いに影響しているのではないだろうか。

Ⅳ　まとめ

本研究では、キリスト教主義の保育を新任保育者がどう捉えているのかについてその要因と変容を含めて検討することが目的であった。クリスチャンのA新任保育者とノンクリスチャンのB新任保育者は、新学期開始前の4月、それぞれのキリスト教経験を捉え方の基として前向きに実践に取り組むが、次第に、保育実践での困難を要因として、捉え方に部分的な変容がみられ、同時に変容がない部分もみられた。ここで、それぞれの1年間の捉え方と、類似点、相違点をまとめる。

〈それぞれの保育者の捉え方と要因、変容〉

- A保育者は、キリスト教主義の保育を就職当初で新学期開始前の4月、神様の存在とその伝達が魅力的な保育であり、また保育者の祈りが保育にいい影響を与えると捉えていたが、次第に、保育方法の困難感が要因となり、神様の伝達と祈りが保育にいい影響を与えるのは困難であると捉えるように変容した。
- A保育者は、子どものキリスト教の行為や行事に対する反応は、未知で興味深いものと捉えている。これは、就職前のキリスト教経験と保育実践との総合的な要因による。
- A保育者は、良好な同僚関係がキリスト教の保育のよい雰囲気を創り出しており、園での宗教研修もその一要因であると捉えている。宗教研修やキリスト教の行為に抵抗を示すノンクリスチャンの同僚の存在を知るが、A保育者のノンクリスチャンへの理解と、保育実践での良好な同僚関係が要因となり、捉え方の変容には至っていない。
- B保育者は、キリスト教主義保育をこれまでのキリスト教経験による価値観と保育実践により、子どもの個性尊重をする、愛情に満ちた温かい雰囲気の保育と捉えており、変容はなかった。これは、保育方法と同僚関係の困難があっても、上司や子どもに支えられたことと、困難を神様からの試練だと思うことにより、乗り越えたためだと考えられる。
- B保育者は、保育での神様の話は、子どもたちの心に届くと捉えている。これは、就

職前のキリスト教経験の上に、担当クラスの保育実践と担当外クラスの保育内容を観察したことの総合的な要因による。

・B保育者は、祈りを感謝の表現だと捉えている。子どもと過ごす日々や、同僚からの援助を感謝して、祈りとして言葉で表現し続けていることが要因である。

〈A保育者とB保育者の類似点と相違点〉

・クリスチャンのA保育者とノンクリスチャンのB保育者の類似点は、困難感の経験、キリスト教主義の保育のよい雰囲気の実感、祈りの重要性であった。困難感の経験の中にあって、同僚からの支えと共に、神に頼ることは、保育者としての成長の転機を支える可能性がある。良い雰囲気の実感は、保育者の子どもへのかかわり方から感じられるため、保育者がキリスト教主義のよい雰囲気を創り出すことを示唆した。また、祈りが保育や同僚関係を支える一つとして重要である可能性が窺えた。

・相違点は、捉え方の変容の有無、子どもたちへの神様の伝達方法、同僚の宗教についての発言の有無、園内の宗教研修についての発言内容であった。捉え方の変容の有無は、保育者の成長プロセスにみられる保育に対する信念を補強したり再構成する過程と考えられる。子どもたちへの神様の伝達方法の違いは、担当する子どもの発達差にある。同僚の宗教についての発言の有無は、クリスチャンとノンクリスチャンの区別を意識させる人的環境の違いにあると思われる。園内の宗教研修についての発言の違いは、A保育者とB保育者のこれまでのキリスト教経験が影響していると考えられる。同僚の宗教についてと、園内研修についての違いは、A保育者とB保育者の場合、クリスチャンかノンクリスチャンかの違いが影響している可能性が窺える。

これらは、新任であるA保育者（クリスチャン）とB保育者（ノンクリスチャン）のキリスト教主義の保育に対する捉え方とその要因、変容であり、一般化できない。しかし、両保育者がそれぞれの異なるキリスト教経験を基礎に、積極的にキリスト教主義の保育を志向し、困難感を乗り越えるために神に頼ることを一つの力とするような実践の中での捉え方である。そのため、新任保育者の支援の示唆となる可能性がある。

V　今後の課題

キリスト教主義の保育者の成長に伴う捉え方を縦断的に検討し、その成長プロセスを明らかにしていくことである。

引用文献

[i] 深谷潤（2010）「キリスト教シンパ層」の存在意義と課題 -- キリスト教保育者養成の視点を中心に．キリスト教教育論集 18. 79-87

[ii] 東義也（2007）キリスト教保育の現場における保育者の信仰と理解について．尚絅学院大学紀要 54. 136

[iii] 赤木敏之（2012）キリスト教教育のperspective―キリスト教保育の現状と課題―．キリスト教教育論集 20. 113

[iv] 東義也（2007）キリスト教保育の現場における保育者の信仰と理解について．尚絅学院大学紀要 54. 127-137

[v] キリスト教保育研究委員会編（2006）キリスト教保育アンケート報告―現状と課題―．社団法人キリスト教保育連盟 . 113

[vi] 深谷潤（2011）ノンクリスチャンによるキリスト教保育の課題―「キリスト教シンパ」とキリスト教的空間―．西南学院大学人間科学論集 7（1）156

[vii] 鈴木幸子（2015）キリスト教主義園における保育方針の具現化―ある主任保育者へのインタヴュー分析より―キリスト教研究年報 3. 25-31

[viii] 鈴木幸子・江村綾乃（2012）新任保育者はキリスト教保育をどう捉えているのか：就職前のインタビューの分析から．日本質的心理学会第 9 回大会プログラム抄録集

[ix] 鈴木幸子・江村綾乃（2013）新任保育者はキリスト教行事をどう捉えているかキリス

ト教教育学会第 25 回発表要旨集録．18-19
[x] 江村綾乃・鈴木幸子（2014）キリスト教保育における保育者の園での役割と宗教意識の関連キリスト教教育学会第 26 回発表要旨集録 40-41
[xi] 杉村伸一郎・桐山雅子（1991）子どもの特性に応じた保育指導 ―Personal ATI Theory の実証的研究―．教育心理学研究 39（1）．31-39
[xii] 上田敏丈（2014）初任保育士のサトミ先生はどのようにして「保育できた」観を獲得したのか？‐保育行為スタイルと価値観に着目して‐保育学研究 52（2）．88-98
[xiii] 大谷尚（2008）4 ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案－着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き－．名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）54（2）．27-44
[xiv] 谷川夏実（2015）初期キャリアの保育者の危機と専門的成長に関する研究動向．教師学研究 16.13-22
[xv] 吉岡一志（2007）保育士の成長を支える信念の形成過程―ある保育士のライフストーリーを中心に―．広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 教育人間科学関連領域 56. 101-108

武藤元昭学長へのインタビュー
＊武藤元昭学長から、そして武藤元昭学長へ

インタビュアー　学生　深澤凜、坂本昇平（人間社会学科２年）
記録　　宗教主任　　伊勢田奈緒

今年度（２０１６年3月）をもって静岡英和学院大学をご退職なさる武藤元昭学長に英和大にまつわることを学生二名がインタビューしました。以下は、インタビューの内容です。

このインタビューは２０１６年1月２０日（１１時２０分～１２時４０分）に学長室において行われました。

緊張気味の学生２名が学長に挨拶してから・・インタビューが始まりました。

学生「では、武藤先生が静岡英和学院大学へ来られたきっかけを教えてください。」

学長「青山学院大学で３８年間（そのうちの４年間は学長として）務め、退職して１年後に深町正信先生[1]より要請があり（学長を引き受けられない場合は、だれか適任者を捜すようにという条件付きで）、引き受けたのですよ。静岡へは来たことはなく、なんの先入観もなく静岡へ来ました。来てみると、本当に良いところで、心地よく過ごすことが出来ましたね。」

学生「そうだったのですか。ありがとうございます。では、これまでのチャペルを振り返って何かお話しください。」

学長「今日[2]は最後のチャペルでしたが、振り返って見ると・・初めは本当にひどかったです。６年５ヶ月前に来た当初の礼拝は今の礼拝とは比べものにならないほど、うるさくて驚きました。伊勢田先生が苦労されていたようでしたが、震災の頃から本当に礼拝が静かになってきたように思います。週一回のチャペルですが、きっと、学生のプラスになっていると思いますよ。貴重な恵みの時であったと後になって気づくのではないかな。」

学生「確かに一年の時、最初は義務で出ていました。・・・でも、一年の頃は結構、心がゆらゆらして、不安でざわついていたので・・そういう気持ちが、礼拝に出ると、なんとなく落ちついてきて心地よく感じるようになりました。それから、同じ学年が一度に集まるという時間がないので、貴重な時間でもありました。色々、皆に伝えたりできて・・。」

学長「それも恵みの時の一つだね。」

学生「なるほど・・では、静岡英和学院大学と建学の精神について何か、お話しください。」

学長「逆に、君たちはどう意識していますか？」
（学生二人はお互いに見合って・・）
学生「・・特に意識していませんが・・」

学長「私学が、国公立とは根本的に違う点は創立した人が信念－建学の精神－をもって建てた学校である点なのだよ。だから、私は建学の精神は、『私学の命』だと思っています

[1] 深町正信先生は元青山学院院長、元静岡英和女学院理事長、現東洋英和女学院院長、現和泉短期大学理事長。
[2] インタビューの行われた２０１６年1月２０日は２０１５年度最後のチャペルであり、学長の最後の奨励があった。

よ。」

学生「そうだったのですね・・。なんとなくわかってきたような・・。では、キリスト教に関する行事での思い出はなんでしょうか？」

学長「大学ではキリスト教関係の行事は少ないけれど、やはり、クリスマスですかね。本当はイースター（復活祭）がキリスト教の中では大事なことなのだけど、・・伊勢田先生が卵を配っていますがね・・・一般的ではないし・・入学してきたばかりの学生には・・・ピンと来ないだろうね？！やはり、クリスマス近くになると・・いつもと違う雰囲気に大学が包まれて・・キリスト教学校であるのを感じるのではないかな。そしてクリスマス礼拝でのキャンドルサービス、クリスマスの劇、そしてクリスマス祝会・・・クリスマスという行事を通して知らず知らずのうちにクリスマスの意味を感じ取っていっていると・・思うのだけど。」

学生「なるほど・・ここで、話題を変えて・・英和大生になおしてもらいたいことはありますか？」

学長「それは、長所であり短所であるのだけど、内気で、シャイなところですね。英和大生は本当に素直で人が良くて、私はとても気持ちよく、これまで過ごしてきましたよ。しかし、シャイだけでは相手に分かってもらえませんよ。自信をもって、やるときはやれるような人になって、もらいたい。それからもう一つは、言葉の訓練を是非してもらいたい。社会に出てから通用するように正しい言葉遣いを大学にいる間に身につけてもらいたいと思います。」

学生「はい、わかりました。では、武藤学長にとって英和大とは？」

学長「静岡英和学院大学は日本における古いキリスト教学校として大いに誇って良い大学であると思いますよ。大学の歴史は短いけれど、その前の歴史があって大学がその延長で建てられたということだからね。もっと自信を持って良いと思います。繰り返しますが、引っ込み思案では相手とか、社会とかが評価してくれません。歴史あるキリスト教学校の学生であることに誇りと自信をもってください。」

学生「そうですね、わかりました。ところで、ここで先生の好きな聖書の箇所と讃美歌を教えてください。」

学長「先ほども言いましたが、私はずっと、言葉が大事だと思ってきました。それで、聖書の好きな箇所も『初めに言（ことば）があった。言（ことば）は神と共にあった。言（ことば）は神であった。・・・』と続く、ヨハネによる福音書の１章です。今日も、この聖書箇所で奨励をしてきましたよ。讃美歌はみんな好きですね。ただ、一編の６６番「聖なる、聖なる、聖なるかな・・」のメロディーはあまり・・良くないと思うよ。歌詞は良いけれどね。特に好きな讃美歌は一編８５番と一編２９８番ですね。讃美歌は日曜学校の時から歌っていますからね・・何度も言いますが、讃美歌は皆、好きですよ。」

学生「武藤元昭学長から大学へ、そして学生へ最後にメッセージをお願いします。」

学長「英和大学の良さを感じて、この大学へ入ったのは、自分の恵みだと思って、大学を好きになって欲しい・・ランクとか偏差値とか関係なく、ただただ、自分の大学を好きになることです。汚い言い方かもしれませんが、大学を食いつぶす・・位の勢いで、大学をどんどん、自分のものにしていってください。私は、この大学の小さいけれども、ばらばらの校舎も好きですね。小さいのに、統一性がなくて・・それがなんとも、味がある・・というか。学生たちが静岡英和学院大学に愛着をもって、そしてこの大学に来て良かったと思って卒業できるように祈っています。」

学生「先生、色々とありがとうございました。この大学がこれまで来たのは、そして自分たちが今、あるのは、学長がつくり守ってこられたからだと思います。自分たちは英和大学を愛して、英和大学がすばらしい大学だと外へ発信できるように頑張っていきたいと思います。それにしも、もっと早く、学長室に来て、先生とたくさんお話をさせて頂きたかったです。今日は、本当に貴重な時間をありがとうございました。」

＊ここに記載した以外の話も色々と学長から伺うことができ、本当に和気藹々とした雰囲気の中、恵みに満ちた時間を過ごすことができました。感謝いたします。

	２０１５年度　　チャペルとキリスト教行事
3月	卒業礼拝：伊藤忠彦先生（日本キリスト教団牧師、前和泉短期大学学長）「自分を励ます」（12日10時半～） 教職員全体会：伊藤忠彦先生「人材の育成だけでなく」（同日13時～14時半）W303
4月	礼拝（毎週水曜日） 始業礼拝・武藤元昭学長「貴方のミッション」（3日） 柴田敏先生「ただ一人の神」（8日） スチューデントリトリート（天城山荘一泊、伊豆三津シーパラダイス）（大学11～12日／短大12～13日） イースター礼拝：伊勢田奈緒「なぜ、天を見上げているのか？」（15日） 伊勢田奈緒「十字架のイエスをはさんでどちらも」（22日） 山田美代子先生「憩い」（29日）
5月	伊勢田奈緒「じぶんのように相手を大切に思う」（13日） 学生礼拝：「リトリートでの思い」コミ福（藁科まゆか）人間社会（小木綾穂　北川みどり　姜寧寧　島村美江　鈴木駿一郎　古屋舞衣　渡邊伊織）現コミ（土井綾乃）食物（大塚茜　久野憧子）（20日） クレイナー先生「In Tune with Jesus」（27日）
6月	宗教センターのホームページ開講 武藤元昭学長「奉仕のこころ」（3日） 伊勢田奈緒「「悪魔」の反対は「生きる」！」（10日） 柴田敏先生「心の貧しい人々は幸いである」（17日） 伊勢田奈緒「種ひと粒に目を留める」（24日）
7月	第9回ワンコインコンサート開催（7，8，9，10日） 学生礼拝：「大学生になって3ヶ月」人間社会（田中一成　林莉佳子）現コミ（THAN HTIKE TUN　西崎ハルミ）食物（矢澤果歩　梅原澪）（1日） 伊勢田奈緒「背筋をしゃきっと」（8日） 武藤元昭学長「賜物によって生きる」（15日）
8月	
9月	武藤元昭学長「良い土地に落ちた種」（30日）9月卒業式
10月	柴田敏先生「与えなさい　そうすれば与えられる」（7日） 伊勢田奈緒「カチンときたかもしれないけれど・・」（15日） 中原陽三先生「あなたによいものを与えようと日夜働かれる神」（22日） 伊勢田奈緒「今いる場所」（29日） 第7回クリスマスカードコンテスト（応募期間：1～31日）
11月	学生礼拝：「今思っていること」コミ福（多々良太郎、嘉茂史織）人間社会（佐々木祐樹、チャンゴック・タイフーン）　現コミ（加藤千佳）食物（堀内佐季）（4日） 武藤元昭学長「生きているということ」（11日） 伊勢田奈緒「よくやった」と言われるように」（18日） 創立記念礼拝：関野和寛先生（日本福音ルーテル東京教会牧師　牧師ロックス） 説教「駄目でバカほど美しい」ライブ曲目（トリニティー　キリエエレイソン　他）（25日） 楓祭に参加（クリスマスの部屋【グロリア】エンタティナーサークル（7，8日） クリスマス・イルミネーション点灯（11月27日～）
12月	第10回ワンコイン・クリスマスコンサート開催（2，3，4，7，8日） 伊勢田奈緒「しつこいこと、そしてあきらめないこと」（2日） 柴田敏先生「霊に導かれて」（9日） クリスマス礼拝・クリスマスメッセージ：伊勢田奈緒「愛に訴えて」 クリスマス劇「若草物語－ISEDA劇団版』（四代目ISEDA劇団【ピョー（人間社会4年他有志学生】（16日） クリスマス・キャンドル・サービス＋クリスマス祝会（16日午後6時～W303にて）
1月	伊勢田奈緒「わたしはひとりではない」（6日） 学生礼拝:「これから」コミ福（坂本夏子）人間社会（柴裕詩、面田駿輝、劉暁康、于偉玲）現コミ（ノーマイ、鷲巣恵美）食物（山崎千嘉、小澤爽乃）（13日） 武藤元昭学長「恵みと真理」（20日）

２０１４年度　静岡英和学院大学・短期大学部教職員研修会

―卒業礼拝講師　伊藤忠彦先生を囲んで―

大学開学以来、毎年、大学教育に携わっておられる先生を卒業礼拝講師にお招きし、午前に続く午後のひと時、教職員研修会を実施して参りましたが、今年度は、日本キリスト教団牧師、和泉短期大学チャプレン•特任教授（前和泉短期大学学長）　伊藤忠彦先生に「人材の育成だけでなく」と題して、お話していただくことになりました。その後、先生を囲んで自由に討議したいと思います。是非、ご出席頂きたく宜しくお願いします。

学長　　武藤　元昭
宗教主任　伊勢田奈緒

日時　２０１５年３月１２日（木）　午後　１：００～２：３０
　　Ⅰ　講師による発題　　１：００～２：００
　　Ⅱ　自由討議　　２：００～２：３０

場所　　Ｗ３０３教室

【伊藤忠彦先生略歴】
１９４１年,生まれ。東京神学大学卒、同大学院修了。
日本キリスト教団ペテル教会伝道師、日本キリスト教団相模原教会牧師、和泉短期大学教授を経て、２００２年４月～２０１４年３月まで和泉短期大学学長、２０１４年４月から和泉短期大学チャプレン・特任教授・理事、現在に至る。

2015 年 3 月 12 日（木）

「人材の育成だけでなく」

1）大学が直面している事態

ⅰ）人材育成への傾き

2）教育の目標は何か

ⅰ）人格の形成：人材の主体としての人格

ⅱ）人材の育成：自立と社会貢献に向けて

3）人格形成を阻んでいる競争主義

ⅰ）過度の劣等感と優越感

ⅱ）自己並びに他なる世界への信頼の喪失

4）人格形成に必要な力・要因

ⅰ）全的信頼を受ける体験

ⅱ）庇護的雰囲気と厳格な雰囲気・エートス

ⅲ）ことばの力

伊　藤　忠　彦

平成 26 年 3 月 20 日改正

『キリスト教研究年報』執筆要綱

1　本誌は、静岡英和学院大学及び静岡英和学院大学短期大学部に在籍しているキリスト者教員（過去に在職していた者を含む。）の研究年報誌であり、該当教員の研究論文、研究ノート、その他キリスト教関連記事（チャペルなど）を掲載する。

2　編集委員会は、キリスト者教員である委員長及び教員若干名によって構成する。

3　委員長は、宗教主任とする。

4　原稿の掲載は、編集委員会の審議を経て決定する。

5　執筆者による校正は再校までとし、原則として大きな修正は認めない。

投稿要項

1　論文原稿は、未発表のものに限る。

2　原稿について

①原稿は、原則として横書きとし、電子媒体で提出する。

②「研究論文」は、1,600 字以内（注・図表等込み）の完全原稿とする。

③「研究ノート」は、12,000 字以内（注・図表等込み）とする。論文としての完成度は要求しないが、新たな方法論や視点を提供する内容であること。

④原稿は返却しないので、写しをとっておくこと。

⑤使用ソフトは、マイクロソフトワードとし、文字フォントは、原則として和文では明朝体、欧文では Century 体とする。

⑥原稿の文字の大きさ（ポイント）は、10.5 ポイントとする。

⑦原稿の用紙設定は、A4・縦置き・横書きとし、余白は、上 32mm、下 30mm、左右はともに 25mm とする。

⑧原稿の字数設定は、1 行半角 80 字（全角 40 字）、各ページ 40 行とする。

附則

この要項は平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

編 集 後 記

『キリスト教年報』第四号を発行することが出来ましたことを嬉しく思います。今号は「キリスト教とコミュニケーション」というテーマのもと、５名のクリスチャン教員による執筆となりました。今回も、各教員の専門分野はばらばらですが、しかし、すべての論文がキリスト教を背景に人とのコミュニケーションをテーマに論じています。如何だったでしょうか？

さて、今回は、第一号から第四号まで巻頭のことばを書いてくださった武藤元昭学長が退官されるにあたって、「武藤元昭学長から、そして武藤元昭学長へ」と題して、学生２名によるインタビューを企画し、その模様を掲載することができました。貴重なお話を伺うことができましたが、その中でも、建学の精神は「私学の命」である、と言われた言葉は心に響きます。また、学生達の英和大への熱い思いを感じ、嬉しく頼もしく思います。先生のこれまでの静岡英和学院大学でのお働きを、そしてキリストの香りを心から感謝いたします。どうか、神様が先生を大いに祝してくださいますように祈ります。今回、このインタビューを通して、私たちクリスチャン教員の大きな使命はその建学の精神を吹き込むことであることを改めて痛感しました。小さな学校の小さなクリスチャン集団ではありますが、力をつくして、思いをつくして、その使命感がもって、教育に、研究に、突き進んでいきたいと思います。マタイによる福音書５章４８節「あなたがたの天の父が完全であられるようにあなたがたも完全な者となりなさい」とあるようにあきらめずに、それぞれの使命を全うしていきたいものです。「猿も木から落ちる」ということわざがありますが、猿も木から落ちるけれども、登ればよいのです。落ちて、また登って、そういう風に、キリスト教の精神を伝え続けていきましょう。

尚、２０１５年３月１２日に行われた教職員研修会の際、配布された伊藤忠彦生のレジュメと２０１５年度の静岡英和学院大学における宗教活動報告を掲載します。

最後に、『キリスト教年報』第四号に協力して頂いた本学教員、並びに前教員、また篠原印刷株式会社の堀氏に心から感謝いたします。

宗教主任　伊勢田　奈　緒

キリスト教研究年報　第四号
Christianity Study Annual

２０１６年３月３１日印刷
２０１６年３月３１日発行

編　集　「キリスト教研究年報」編集委員会
発　行　静岡英和学院大学キリスト教研究会
静岡市駿河区池田１７６９番地
電話（０５４）２６１－９２０１
印刷所　株式会社　篠原印刷所
静岡市駿河区登呂６－７－５
電話（０５４）２８６－５１４１